

神奈川県
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2020年度）

検討委員会討議資料（第1回～第4回）

2021年3月24日
ケイスリー株式会社

A-1: 第1回検討委員会 討議資料 (2020年9月2日)

A-2: 第2回検討委員会 討議資料 (2020年11月6日)

A-3: 第3回検討委員会 討議資料 (2020年12月23日)

A-4: 第4回検討委員会 討議資料 (2021年2月19日)

A-1: 第1回検討委員会 討議資料 (2020年9月2日)

A-2: 第2回検討委員会 討議資料 (2020年11月6日)

A-3: 第3回検討委員会 討議資料 (2020年12月23日)

A-4: 第4回検討委員会 討議資料 (2021年2月19日)

神奈川県

2020年度 SDGs社会的インパクト評価実証事業

検討委員会 (第1回)

2020年9月2日

本日のアジェンダ

アジェンダ

1. 全体像と進捗 (20分)

2. 実証事業について (20分)

3. 研修入門編 (第1回) 開催について (25分)

4. 研修実践編の概要について (20分)

5. 調査について (10分)

特に議論させていただきたい点

今年度のゴールと実施内容について

4つめの実証事業について

研修目的とプログラム内容について

各回内容と応募要件について

金融機関のヒアリング先候補について

本日のご参加者

検討委員（五十音順、敬称略）

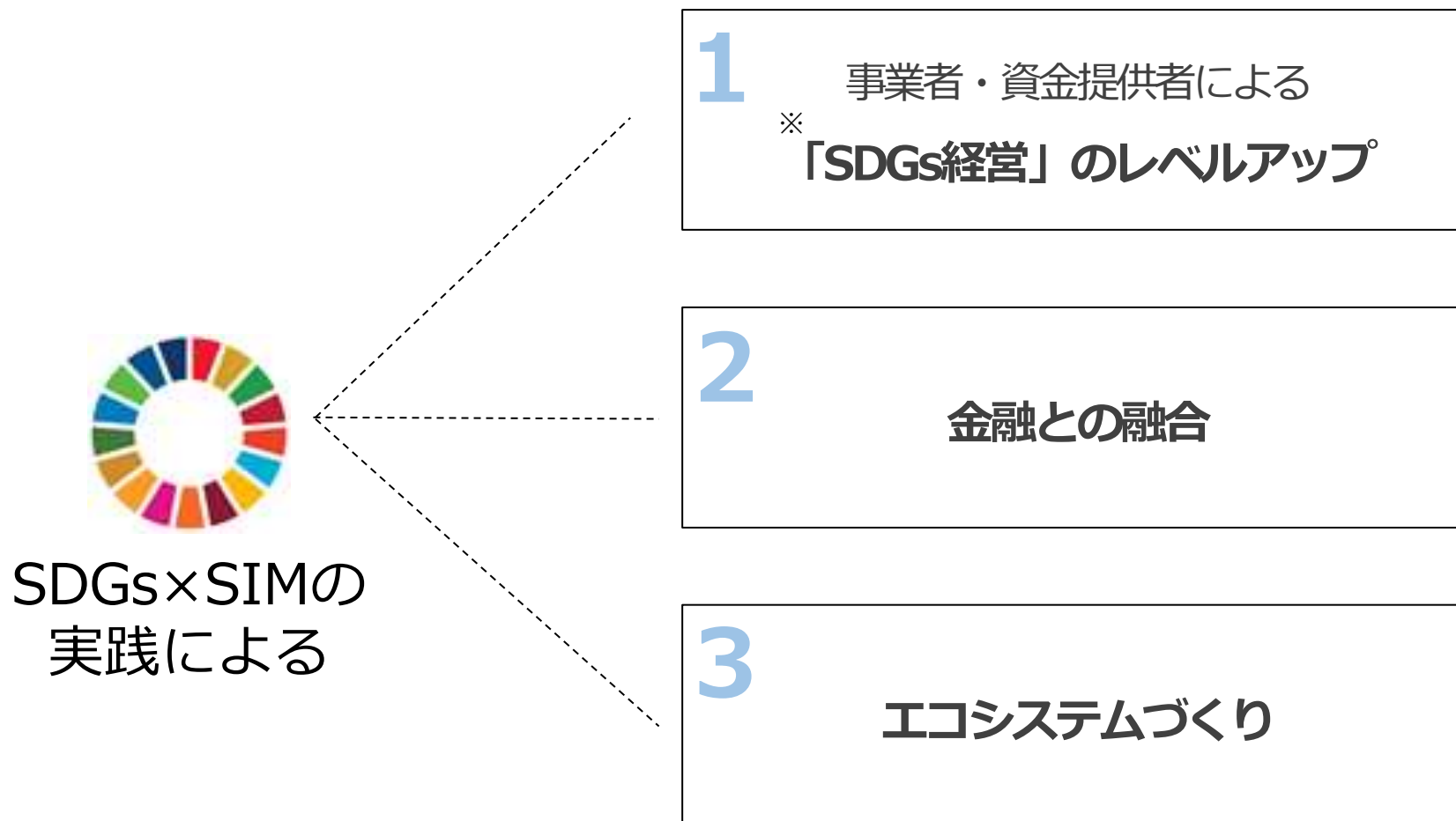
氏名	所属	役職
今田 克司	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
大井 千佳生	株式会社横浜銀行	地域戦略統括部 担当部長
幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
志波 崇裕	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
黄 春梅	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
山口 健太郎	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

オブザーバー（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
木曾 大介	かながわ信用金庫	業務企画部 業務企画課
照沼 大	日本ベンチャーキャピタル株式会社	執行役員兼ベンチャーキャピタリスト
苗村 貴宏	かながわ信用金庫	経営企画部 副部長

1 全体像 (1/2)

- 本事業は、SIMの実践を通じて、SDGs達成のための（1）SDGs経営のレベルアップ、（2）金融との融合、（3）エコシステム形成をめざす



※SDGs経営：本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています

1 全体像 (1/2)

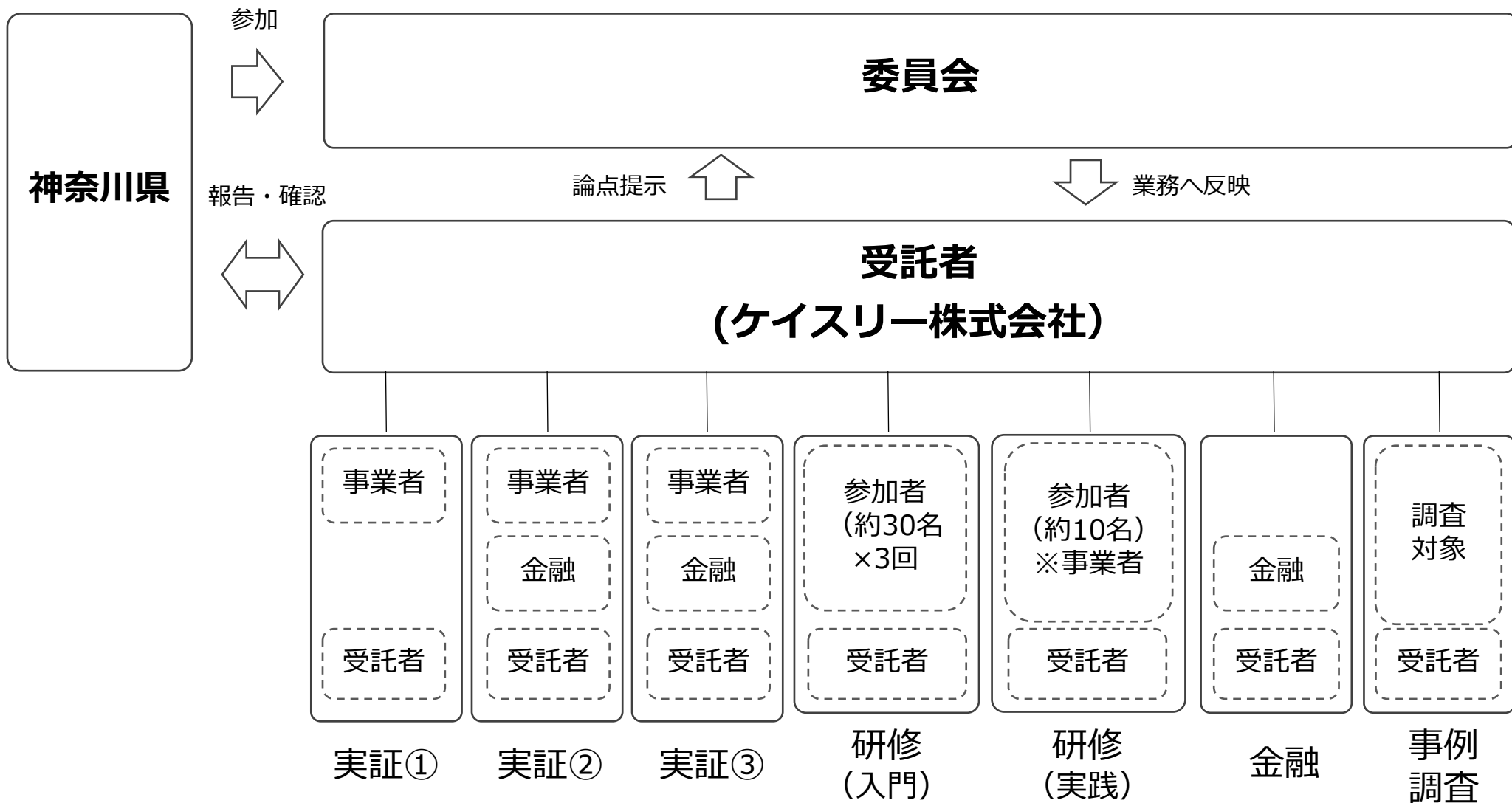
- 本事業は、SDGs未来都市計画の3年目に当たる。主な実施内容は以下のとおり

神奈川県SDGs未来都市計画

	2018年度	2019年度	2020年度
SDGs × SIM	<ul style="list-style-type: none"> 実証実施 「評価実践ガイド」策定 多様なステークホルダーとのネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実施 「SDGs×SIMガイド」策定 社会的インパクト評価事例調査 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実施 (金融機関との協働) 事例調査 (過年度のフォローアップ、金融、他自治体) 研修実施 (入門編／実践編) SDGs×金融に関する国内外の動向把握
× 金融	<ul style="list-style-type: none"> SDGs×金融に関する国内外の動向調査 基本方針と課題等の整理 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs×金融に関する国内外の動向調査 SIM活用に向けた提言策定 実証事業／研修への組み込み 	
人材 育成	<ul style="list-style-type: none"> 求められる能力、技術の整理 人材育成研修案の検討・作成 	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修の実施 今後の展開に向けた提言策定 	

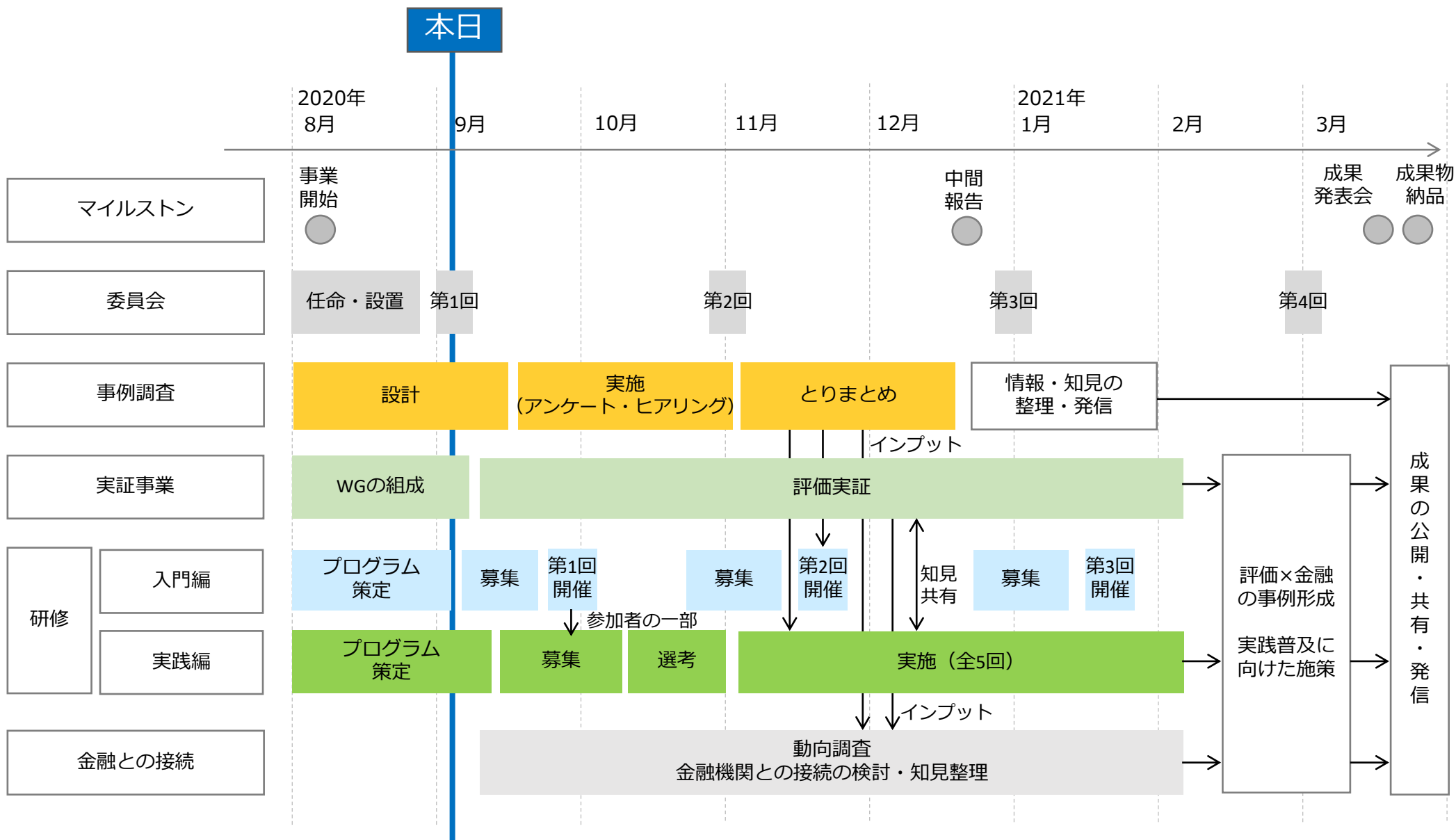
1 実施体制

- 実施体制は以下の通り。委員会にて各業務を通じた議論を行う



1 進捗

- 9月上旬より、事例調査、実証事業、研修の具体的な動きを開始する



2 実証事業について

- 本年度は、金融機関における実証事業を実施

	めざすゴール	実施内容
1 Fujisawa SST	Withコロナ時代のコミュニティケア (多世代交流) のあり方の検討および 新しい取り組みの創出	<ul style="list-style-type: none">• 目的、課題、事業の整理 (LM/指標設定)• 新規の取り組みの検討• (トライアルの実施と評価)
2 日本 ベンチャー キャピタル (NVCC)	将来的なNVCCにおける インパクト投資 (ファンド) 実践を 見据えた仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none">• 投資先企業との事例構築• 社内の勉強会実施• 投資家向けの発信
3 かながわ 信金	社会的インパクトを加味した融資の 実践に向けた仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none">• 融資先企業との事例構築• 社内の勉強会実施• 社内の人材育成
4 検討中	ご相談	

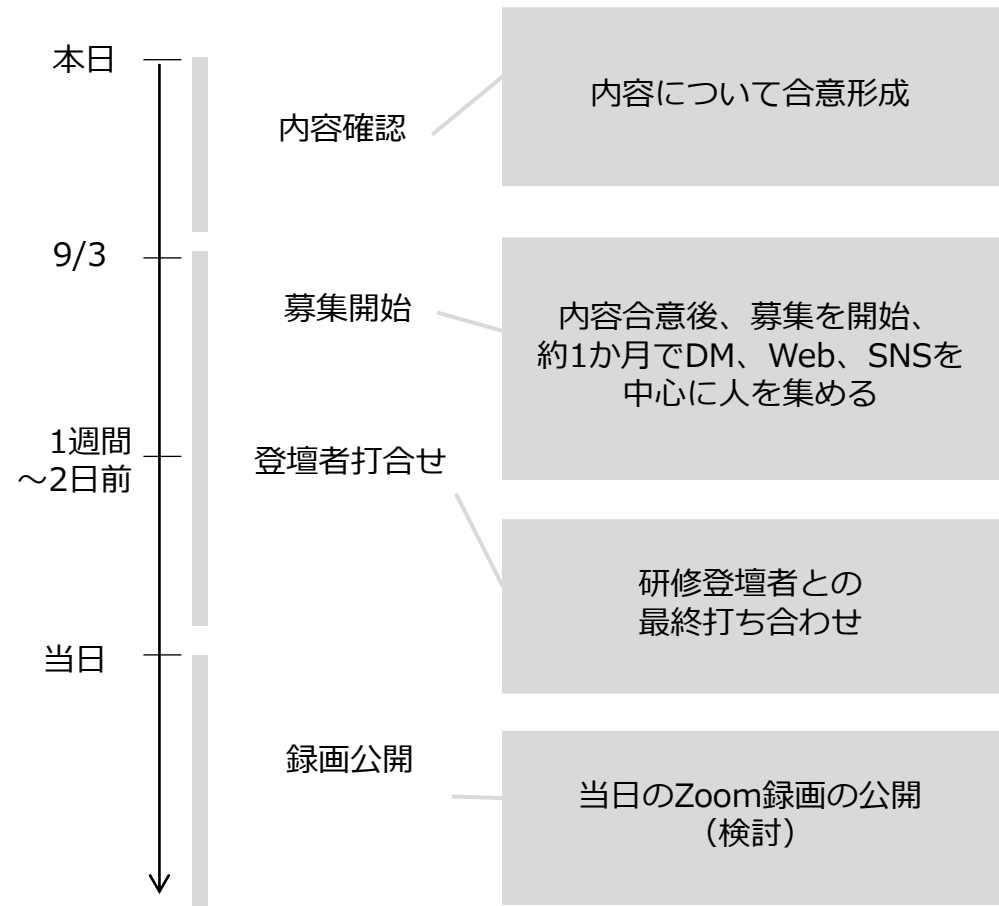
3 研修入門編（第1回）の開催についての開催について（1/2）

- 入門編ではSDGs社会的インパクト・マネジメントの普及と新たなつながりを作ることを目的に、3回実施する。初回では特に実践編への参加を促す

入門編の内容

目的	<ul style="list-style-type: none">SDGs社会的インパクト・マネジメントの普及新たな関係者（金融機関を含む）とのつながりを作る実践編への参加を促す（第1回）
日程（予定）	<ul style="list-style-type: none">第1回 9/29（火） 14時-15時半第2回 11/27（金） 14時-15時半第3回 1月29（金） 14時-15時半
概要	<ul style="list-style-type: none">場所：Zoom人数規模：200名程度対象者：「SDGs」「企業の社会的価値」「社会的インパクト・マネジメント」「ESG投資」「インパクト投資」などに関心があり、その実践に向けた具体的な取り組み意欲のある方々登壇者：各回登壇者を個別に調整参加費：無料主催：神奈川県お申込み方法：Googleフォーム

第1回の実施までの流れ



3 研修入門編（第1回）の開催についての開催について（2/2）

- 第1回では目的（SDGs社会的インパクト・マネジメントの普及及び実践編への応募者呼び込み）に沿って、下記プログラムで実施

- タイトル：『神奈川県SDGs×社会的インパクト・マネジメントセミナー2020』第1回

日時	プログラム概要
第1回 9/29（火） 14時-15時半	14:00-14:05 開会挨拶 ・山口 健太郎氏（神奈川県理事）
	14:05-14:20 SDGs×インパクト投資 ・黄 春梅氏（新生企業投資株式会社）
	14:20-14:50 「神奈川SDGs社会的インパクト・マネジメント」および 研修実践編について ・今尾 江美子氏（ケイスリー株式会社）
	14:50-15:10 昨年度の研修参加者の声（個別のプレゼンテーション） ・照沼大氏（日本ベンチャーキャピタル株式会社） ・羽鳥徳郎氏（株式会社TBM）
	15:10-15:30 質疑応答（チャットで随時）

4 研修実践編の概要について (1/2)

- 実践の事例づくり、普及者の育成、事業者の資金調達や外部への発信を目的に実施
- 11月から1月にかけて全5回で、SDGs社会的インパクト・マネジメントを支援

実践編の内容

目的	<ul style="list-style-type: none">事業者のSDGs社会的インパクト・マネジメントの実践的な事例づくり普及者の育成事業者の資金調達や外部への発信
内容	講義とメンタリングを組み合わせた ハンズオン支援 <ul style="list-style-type: none">オンライン講義：1時間ワークショップ・メンタリング：2時間
各回内容	第1回：SDGsの基礎、金融との接続について 第2回：社会的インパクト・マネジメントの概要 第3回：社会に与える影響を可視化する方法 第4回：社会に与える影響を測定・分析する方法 第5回：ワークの最終発表

概要スケジュール



- 11/6、11/20、12/4、1/8、1/22 の全5回
- 14:00～15:00 オンライン講義
- 15:00～17:00 ワークショップ、メンタリング、質問相談

4 研修実践編の概要について (2/2)

- 法人形態は問わず、SDGsを推進または推進する意思のある組織で、資金調達の意向があり、事業の意思決定者がプログラムに参加できることを歓迎する

参加者の応募要件・歓迎要件

応募要件

- 全5回のプログラムに全て参加すること、またプログラム期間中に出される宿題を提出すること
- SDGs推進に取り組んでいる組織、取り組むことを志向する組織
- 営利、非営利等法人形態は問わない

歓迎要件

- 資金調達をする意向があること
(投資・融資等の種類は問わない)
- 応募する事業の意思決定者がプログラムに参加できること

講師・登壇候補者

- 今田克司氏
(株)ブルー・マーブル・ジャパン
代表取締役
- 幸地正樹氏
ケイスリー (株) 代表取締役
- 源由理子氏
明治大学公共政策大学院専任教授
- 日本ベンチャーキャピタル(株)
- かながわ信用金庫
- その他昨年度研修参加企業

参考 研修実践編の概要について

日時	目的	コンテンツ	講師/ファシリテーター	時間 (分)	ガイド 範囲	研修後の課題
第1回 11/6 (金) 14時-17時	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの基礎と、SDGs達成のための新たな資金の流れを理解する 	SDGsの基礎	株式会社ブルー・マープル・ジャパン代表取締役 / 今田克司氏	30	導入編 STEP1 準備	<ul style="list-style-type: none"> (事前) SIM目的設定、関連するSDGsゴール・ターゲットの検討 対象事業の確認 最終アウトカム出し
		SDGsと金融との接続	ケイスリー (株) / 幸地正樹氏	30		
		ワークショップ	ケイスリー (株)	120		
第2回 11/20 (金) 14時-17時	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの達成のためのマネジメント手法を理解する 具体的な事例を知る、 	SDGsと社会的インパクト・マネジメントの概要	明治大学公共政策大学院 / 源由理子専任教授	30	STEP2 ロジック モデル 作成	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデル作成
		事例紹介	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社キノファーマ 株式会社インターネットインフィニティ 	30		
		ワークショップ	ケイスリー (株)	120		
第3回 12/4 (金) 14時-17時	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの達成のためのマネジメント手法を知る、活用できるようになる 	社会的インパクト・マネジメントの手法 1	ケイスリー (株)、 昨年度研修参加企業	60	STEP3 データ 収集	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデル修正 データ収集計画
		メンタリング (融資/株式による資金調達を志向する企業)	ケイスリー (株)	120		
		メンタリング (資金調達を志向しない企業)			STEP4 データ 分析	
第4回 1/8 (金) 14時-17時	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの達成のためのマネジメント手法を知る、活用できるようになる 	社会的インパクト・マネジメントの手法 2	ケイスリー (株)、 昨年度研修参加企業	60	STEP5 解釈・ 活用	<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料作成 (SDGs達成のシナリオ、データ分析方法)
		メンタリング (融資/株式による資金調達を志向する企業)	ケイスリー (株)	120		
		メンタリング (資金調達を志向しない企業)				
第5回 1/22 (金) 14時-17時	<ul style="list-style-type: none"> 最終成果を発表する 	最終成果発表	ケイスリー (株)	180		

※日程は検討中のもの。別途調整

5 調査について

- 過年度事業参加者や先進的な取り組みをする関係者にアンケート、ヒアリングを実施
- 優良事例等の蓄積、今後のための提言を作成し、県HPなどで発信を行う

全体設計

	実施すること		抽出する課題・対策		
	アンケート	ヒアリング	SDGs推進	SIM実施	金融との接続
事業者	21社	3社	SDGs社会的インパクト マネジメントの実施状況等 優良事例の抽出		資金調達等への 接続状況等
金融機関	9社	3社	SDGs社会的インパクトマネジメントを活用した 金融との接続状況等		
行政	—	5か所	SDGs推進におけるSIMに類する取り組みや、 金融を含めたマルチステークホルダーでの取組状況等		

優良事例の事例集作成

各関係者が、今後よりSDGs社会的インパクト・マネジメントに取り組むための提言を作成
県ホームページなどを活用し、知見の蓄積・発信を実施

参考 調査について～アンケート・ヒアリング対象者：事業者～

- 2018年度・2019年度実証事業、2019年度研修参加者の全員にアンケートを実施
- 上記参加者の内、特に実践の継続が見込まれる組織にヒアリングを実施

組織名	過年度事業参加	候補理由	調査方法	
			アンケート	ヒアリング
MS&ADインターリスク総研株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
コニカミノルタ株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
スリール株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
一般社団法人オープンデータラボ	あり	2019年度研修参加者	○	—
一般社団法人ファストエイド	あり	2019年度研修参加者	○	—
一般社団法人日本経営士会南関東支部 神奈川経営支援センター	あり	2019年度研修参加者	○	—
横浜市資源リサイクル事業協同組合	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社TBM	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社リビエラ	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社横浜フリースポーツクラブ	あり	2019年度研修参加者	○	—
向洋電機土木株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
国際航業株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
湘南電力株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
石井造園株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
認定NPO法人 Teach For Japan	あり	2019年度研修参加者	○	—
文部科学省	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社リエゾンワークス	あり	2019年度実証事業	○	—
Fujusawa SST (パナソニック株式会社を窓口とする)	あり	2018年度実証事業、 2019年度実証事業、2019年度委員	○	—
株式会社インターネットインフィニティ	あり	2019年度実証事業	○	○
株式会社K2インターナショナルジャパン	あり	2018年度実証事業、2019年度ヒアリング対象	○	○
アルケア株式会社	あり	2018年度実証事業	○	○

参考 調査について～アンケート・ヒアリング対象者：金融機関～

- 2019年度研修参加者の全数にアンケートを実施
- 実際にインパクト投資を実施している組織にヒアリングを実施

組織名	過年度 事業参加	候補理由	調査方法	
			アンケート	ヒアリング
かながわ信用金庫	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社みずほ銀行	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社日本政策投資銀行	あり	2019年度研修参加者	○	—
日本ベンチャーキャピタル株式会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
ARUN合同会社	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社ローソン銀行	あり	2019年度研修参加者	○	—
公益財団法人日本財団	あり	2019年度研修参加者	○	—
公益財団法人笹川平和財団	あり	2019年度研修参加者	○	—
株式会社横浜銀行	あり	2019年度研修参加者、2019年度委員	○	—
新生企業投資株式会社	あり	2019年度委員	○	○
一般財団法人社会変革推進財団	なし	インパクト投資家としての実績がある	—	○
一般財団法人KIBOW	なし	インパクト投資家としての実績がある	—	○

参考 調査について～ヒアリング対象者：自治体～

- 未来都市選定の自治体を中心に、先進的かつ神奈川県を取り組みに親和性のある取り組みを行う自治体に、神奈川県モデル・事例に関するヒアリングを行う

組織名	候補理由
岩手県岩手町	2020年度未来都市 トリプルボトムラインによる町の持続可能性向上モデルの構築・実証 ～SDGs姉妹都市×リビングラボ～
大阪府富田林市	2020年度未来都市 SDGsを共通言語としたマルチパートナーシップによる“富田林版”いのち輝く未来社会のデザイン
神奈川県鎌倉市	2018年度未来都市 持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくらの創造」
福岡県北九州市	2018年度未来都市 北九州市SDGs未来都市
滋賀県	2019年度未来都市 世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現
広島県	2019年度未来都市 SDGsの達成に向けて平和の活動を生み出す国際平和拠点ひろしまの取組を加速する ～マルチステイクホルダー・パートナーシップによるSDGsの取組の強化～
北海道	2018年度未来都市 北海道価値を活かした広域SDGsモデルの構築
福岡県北九州市	2018年度未来都市 北九州市SDGs未来都市
沖縄県	おきなわSDGsパートナー等、SDGsに関する取組を推進

A-1: 第1回検討委員会 討議資料 (2020年9月2日)

A-2: 第2回検討委員会 討議資料 (2020年11月6日)

A-3: 第3回検討委員会 討議資料 (2020年12月23日)

A-4: 第4回検討委員会 討議資料 (2021年2月19日)

神奈川県

2020年度 SDGs社会的インパクト評価実証事業
検討委員会 (第2回)

2020年11月6日

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)
 - 1-1 全体進捗
 - 1-2 各進捗報告
 - (1) 調査
 - (2) 実証事業
 - (3) 研修 (入門編)
 - (4) 研修 (実践編)
 2. 点から面的展開に向けて (議論 30分)
 3. 来年度以降の自走化に向けて (議論 30分)
-

※各ページ、右肩に 要議論 報告・共有 参考 を明記

本日のご参加者

検討委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
今田 克司	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
大井 千佳生	株式会社横浜銀行	地域戦略統括部 担当部長
幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
志波 崇裕	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
黄 春梅	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
山口 健太郎	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

オブザーバー（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
上田 ゆかり	北九州市	企画調整局 SDGs推進室 次長
大多和 亮介	大和シルフィード株式会社	
大庭 千明	かながわ信用金庫	経営企画部
國友 圭子	滋賀県	商工政策課 滋賀SDGs×イノベーションハブ
小坪 拓也	株式会社カルティブ	
照沼 大	日本ベンチャーキャピタル株式会社	執行役員兼ベンチャーキャピタリスト
徳浪 万里	株式会社藤枝MYFC	
山本 英治	株式会社福山コンサルタント	本社事業部 地域計画グループ
山本 卓也	株式会社滋賀銀行	総合企画部 サステナブル戦略室

＜横浜FC様×リエゾンワークス様の連携＞

横浜FC様（昨年度の研修参加者） 環境問題に対する取り組みの一環として、
リエゾンワークス様（昨年度の実証参加者） と連携し、ホームゲーム開催時における
グッズ販売でのレジ袋を「バイオマス素材レジ袋」へ変更。



本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)

1-1 全体進捗

1-2 各進捗報告

(1) 調査

(2) 実証事業

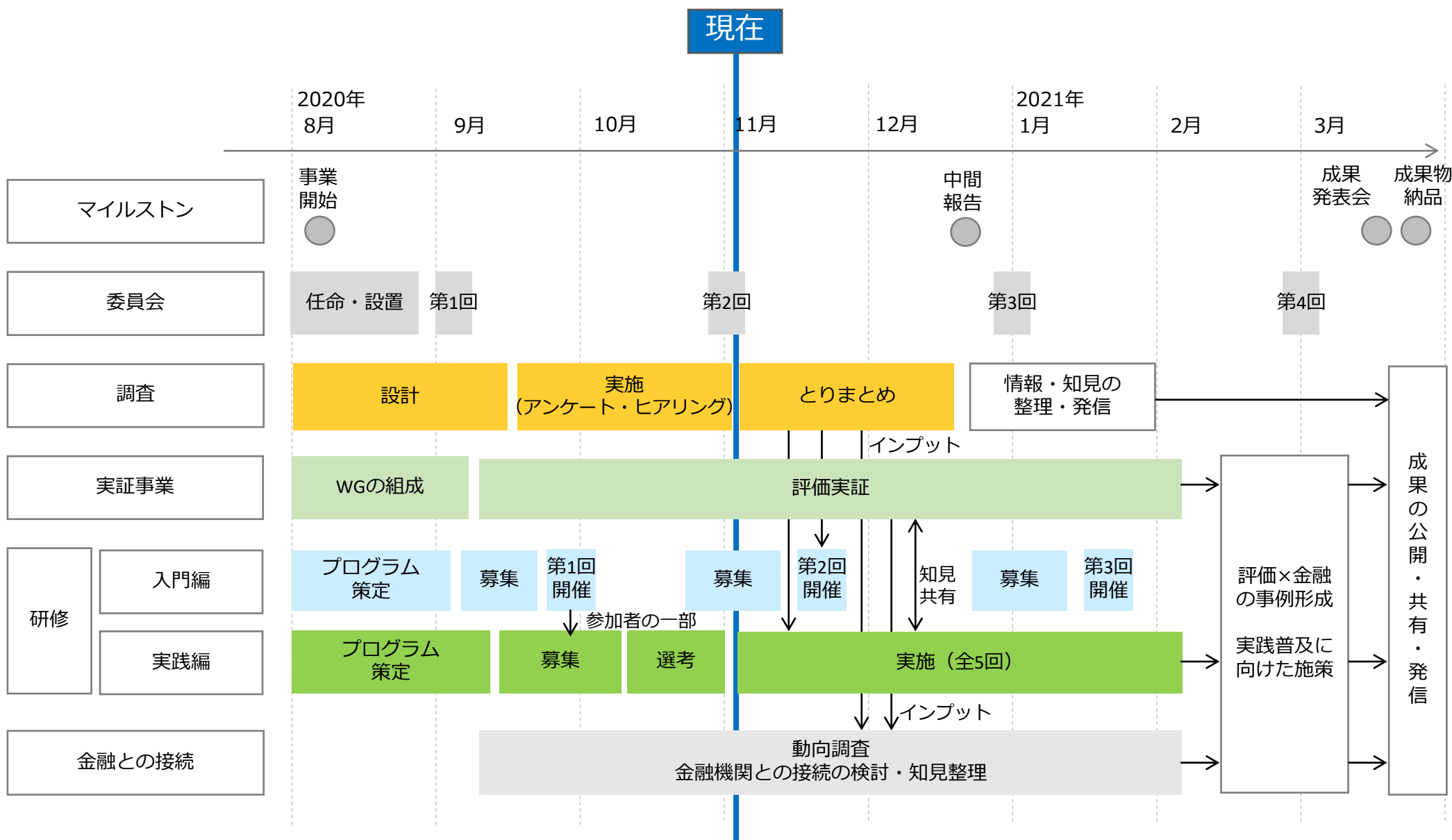
(3) 研修 (入門編)

(4) 研修 (実践編)

2. 点から面的展開に向けて (30分議論)

3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 概ね予定通りに進捗（一部、実証事業に遅れがある）



各WGの進捗は以下の通り

1	調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート、ヒアリング（事業者、金融機関、自治体向け）は、沖縄県ヒアリング（11月10日予定）以外全て終了 要素抽出、提言作成を行い、各ワーキンググループへの共有を実施中
2	実証事業	<ul style="list-style-type: none"> FSST :Withコロナ時代のコミュニティケアのあり方を議論 NVCC（VC） :投資先1社のSIM支援開始、社内勉強会を開催済み かながわ信金（融資） :融資先1社の選定中、信金内の勉強会を開催予定 MS（クラウドファンディング） :フレームワーク策定中、対象企業の選定中
3	研修	<ul style="list-style-type: none"> 入門編 第1回を9月29日に実施し、延べ144名が視聴。アンケートでは「社会的インパクト・マネジメント」について学びたい、学べたという回答がいずれも8割を超えた 第2回は具体的な実施プロセスの一部を学んでいただくこと、ガイドを知っていただくことを目的に12月3日開催予定
	実践編	<ul style="list-style-type: none"> 参加企業12社（含 神奈川県）を選定済み。 11月5日に第1回を開催。（全5回） SIM事例づくりと、資金提供者との対話を組み込むことをめざす。
4	金融との接続	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな動向に関する情報収集 調査、実証、研修の横断的な情報整理と施策の検討

本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)

1-1 全体進捗

1-2 各進捗報告

(1) 調査

(2) 実証事業

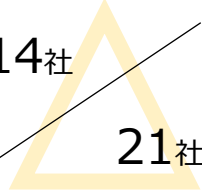
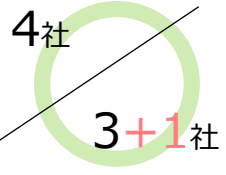
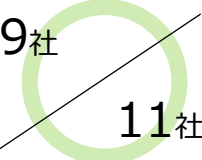
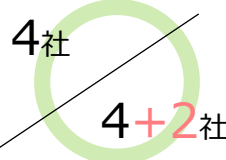
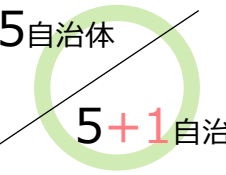
(3) 研修 (入門編)

(4) 研修 (実践編)

2. 点から面的展開に向けて (30分議論)

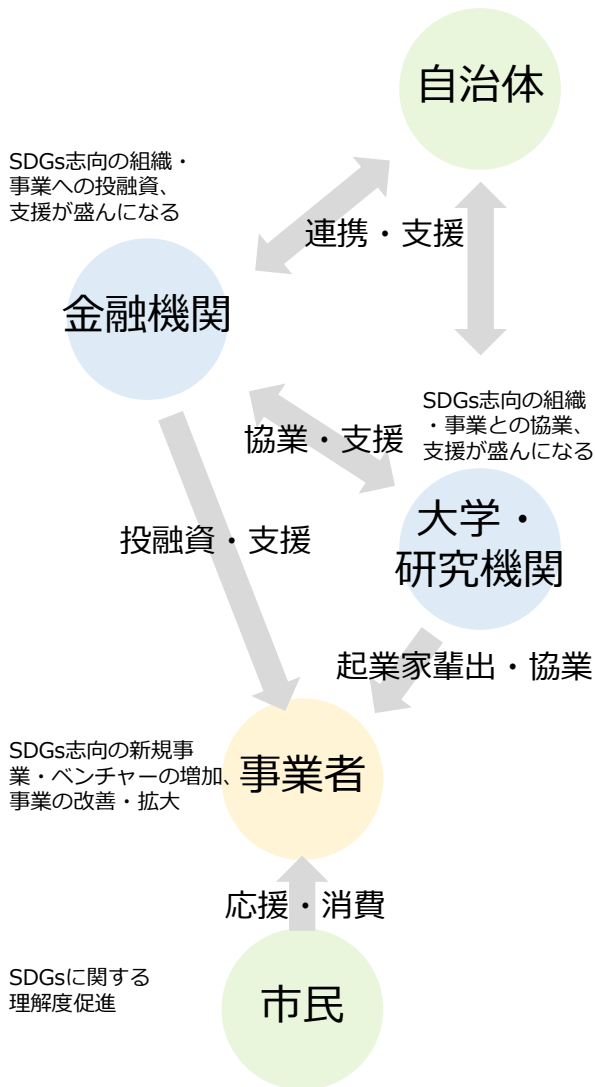
3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 優良事例作成、提言作成を目的にアンケート、ヒアリングを実施し、ほぼ終了
- 結果から各ワーキンググループ、次年度以降の貴県の方角性に関して提言を作成

	実施したこと/設計		現状の進捗状況・概要	今後の予定
	アンケート	ヒアリング		
事業者	14社  21社	4社  3+1社	<ul style="list-style-type: none"> • アンケートはコロナ影響や退職で7割で終了 • 事業改善への活用例や、他事業での活用例など面への広がりがあるが、金融との接続には至っていない 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業者向けの支援への提言作成
金融機関	9社  11社	4社  4+2社	<ul style="list-style-type: none"> • アンケートは8割回収で終了 • 行政による推進は地域金融機関にとっては有効。より簡潔な仕組み・参画しやすい施策が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> • 実証事業参加の2社をヒアリングに追加予定
行政	—	5自治体  5+1自治体	<ul style="list-style-type: none"> • 神奈川県含む5自治体の推進状況を把握 • 各行政特色はあるが、地方創生SDGs金融の流れ含め、金融機関を通じた中小企業の支援に重要視 	<ul style="list-style-type: none"> • 沖縄県ヒアリングを11月10日に実施予定
目的・方向性	<p><u>優良事例のコラム作成 (2社：インターネットインフィニティ、TBMを予定)</u> <u>各関係者が、今後よりSDGs社会的インパクト・マネジメントに取り組むための</u> <u>知見の蓄積・発信方法や施策との連携などの提案を作成</u></p>			

各関係者毎に得られた示唆を大まかに整理

各関係者と想定のアウトカム



得られた大まかな示唆

- **隣接の広域自治体や基礎自治体との連携**で、市民への普及・啓発や金融機関・事業者との連携がより広く可能になる
 - **他局の施策等との連携**で金融機関・事業者との連携促進が可能になる
 - **評価コスト・リソースの自治体による支援がSIM実施の後押し**になる
-
- **標準化は必須ではなく（融資では困難）、事業者との対話**が必須である
 - より多くの金融機関の取組が、事業者のSIM実施の動機付けになる
 - 組織内説得のためにも**外部からの介入や実施のハードルの低さがわかることは効果的**
-
- 大学、研究機関等が事業者のSIM実施の支援者になる可能性はある
 - インパクト志向の新規事業は大学や研究機関から新たに生まれる可能性が高く、連携体制が用意されていた方がよい
-
- SIM継続のための組織としての**リソース・体制の支援が必要**
 - 指標設計、データ収集が課題、**ハードルを下げる必要がある**
 - **組織内説得のためにも、組織内における実施プロセスの明確化、金融機関との接続等SIMを継続するインセンティブ設計が重要**
-
- 市民からの理解により、事業者や金融機関内の理解につながる可能性がある

・ 得られた示唆から考えられる実施策等の提言を考案

対応する提言

得られた大まかな示唆

	実証	研修	金融	今後・その他
<p>自治体</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接の広域自治体や基礎自治体との連携 他局等の施策との連携 評価コスト・リソースの自治体による支援 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体施策のアウトカムとの紐づけを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 実践の成果発表会で今後連携したい自治体を招待 		<ul style="list-style-type: none"> 他局・他部署（産業労働やヘルスケア）の施策との連携 SIMの人・金のコスト支援
<p>金融機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者との対話推進 より多くの金融機関参画 外部からの介入や実施のハードルの低さの明示 	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関向けSIMプロセス抜粋版・原則（最新海外動向含む）の更新 社内勉強会による普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関向け基礎研修の実施、マテリアルの公開 	<ul style="list-style-type: none"> ハードルを下げるための要素抽出・整理 	<ul style="list-style-type: none"> 金融フレームワークへのSIM簡易版接続 SDGsパートナーでのマッチング促進
<p>大学・研究機関</p> <ul style="list-style-type: none"> SIMの支援実施 連携体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 連携に関する可能性を探る 	<ul style="list-style-type: none"> 実践の成果発表会で今後連携したい機関を招待 		<ul style="list-style-type: none"> SDGsパートナーの活用 SDGsベンチャー、新規事業創出支援
<p>事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施リソース・体制支援 データ収集のハードルを下げる 実施プロセス明確化、インセンティブ設計 		<ul style="list-style-type: none"> 各プロセスへの支援を具体的に設計 取り組み事例の公開 成果発表会における幅広い機関の招待 		<ul style="list-style-type: none"> 組織内のプロセスを重視したガイド更新 事例の積極的公開 自治体施策アウトカム・指標の公開 アクションファクト連携
<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民への普及・啓発、参加 		<ul style="list-style-type: none"> 成果発表会における幅広い機関の招待 		<ul style="list-style-type: none"> イベント等の継続的实施

本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)

1-1 全体進捗

1-2 各進捗報告

(1) 調査

(2) 実証事業

(3) 研修 (入門編)

(4) 研修 (実践編)

2. 点から面的展開に向けて (30分議論)

3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- SDGs×SIMのフレームワークを活用し、“住民起発のまちづくり”に資するWith/Afterコロナ時代のコミュニティケア事業を検討する

目的

- SIMを活用して、With/Afterコロナ時代でも発展および持続可能なFSST版コミュニティケアの在り方を再定義する。
- 上記で決定した方針をベースに、学研ココファンのアクションプランを検討する。

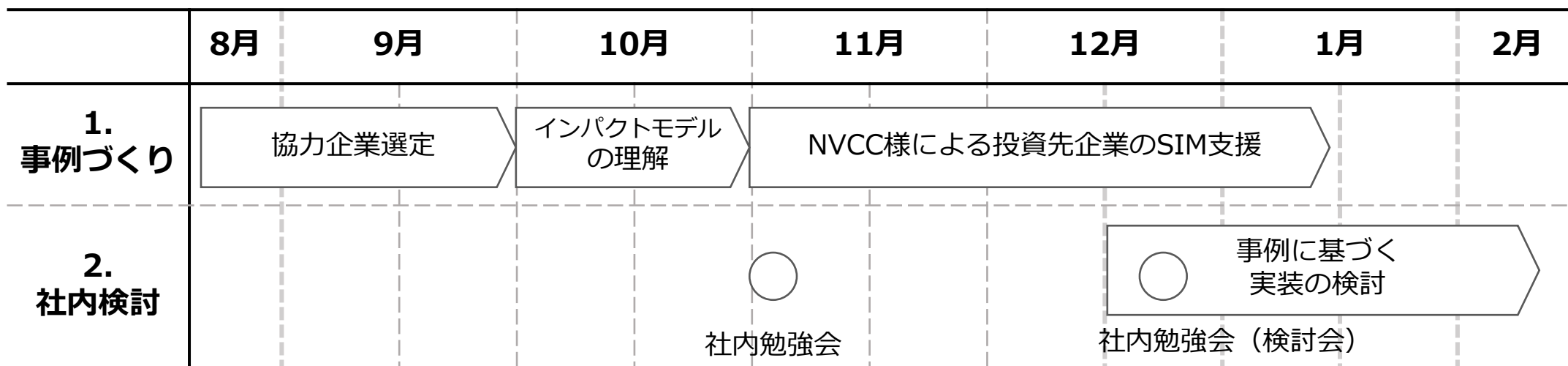
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
コミュニティケア全体	今期の方針決定	ありたい姿・現状・課題の整理		ステークホルダー(主に住民)への調査			
学研ココファン				強み/弱み分析	アクションプランの検討	指標作成	

- 昨年度の研修参加者の照沼様を起点に、NVCCにおけるインパクト投資実装に向けた社内理解の向上と事例構築をめざす。

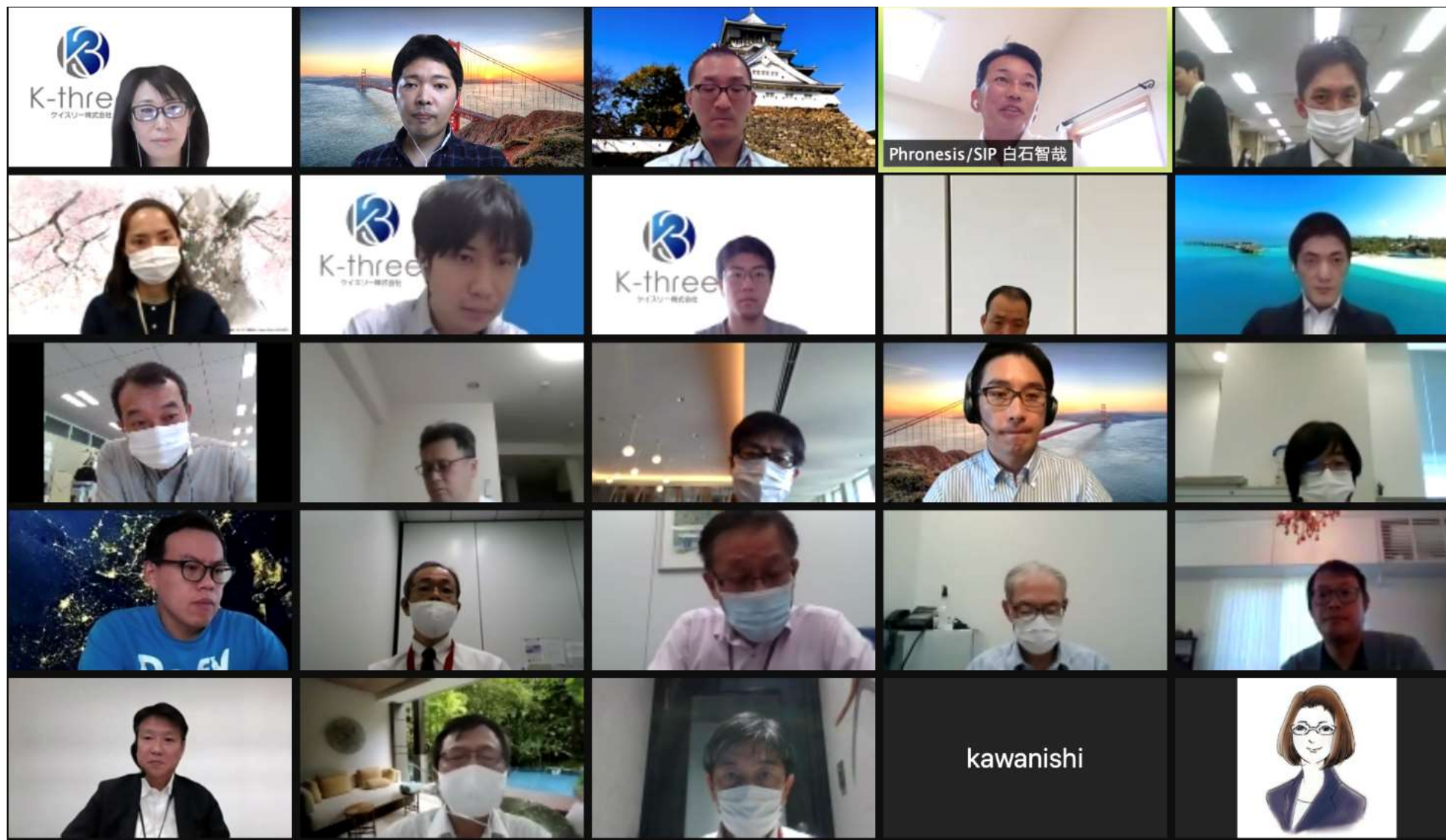
目的

将来的なNVCCのインパクト投資実装に向けた仕組みづくり

- 具体的な事例に基づき、現実的かつ持続的な仕組みを検討する。
- 重要な関係者（社員、出資者など）の理解促進をおこなう。



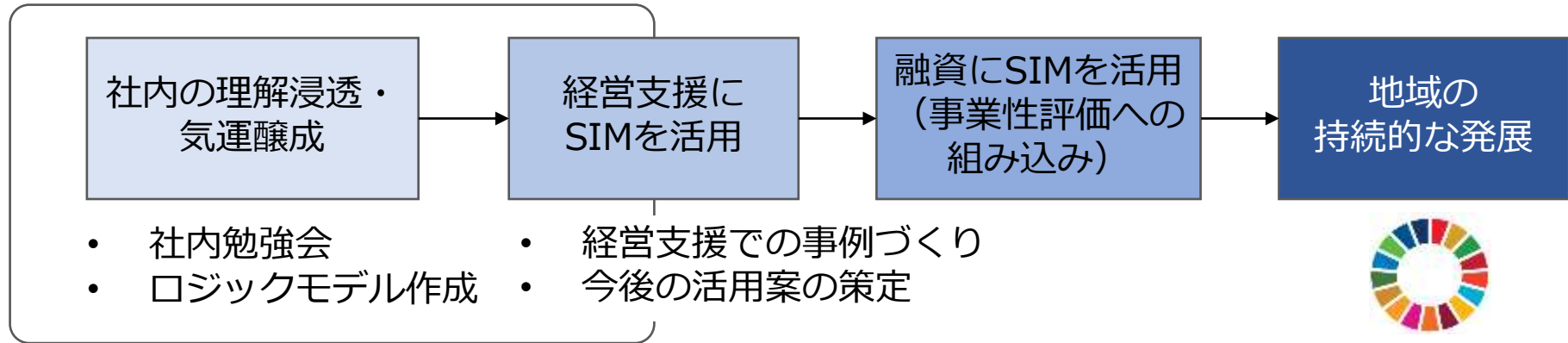
社内勉強会 (11/4) の様子



- 将来的に融資（定性評価）に組み込むことを見据えて、今年度は、社内勉強会や事例づくりを通じて、社内の理解浸透と（融資後の）経営支援への活用検討をめざす。

<想定ロードマップ>

今年度の目標

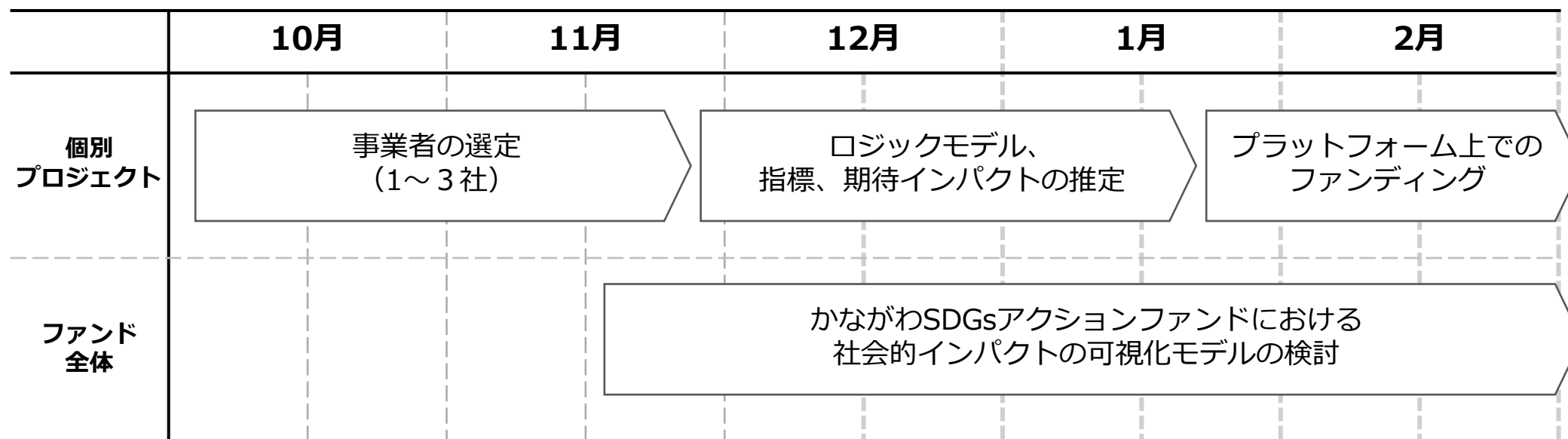


	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1. 事例づくり	協力企業選定				かながわ信金様による 融資先企業のSIM支援		
2. 社内検討				○ 社内勉強会		○ 事例に基づく 実装の検討 社内勉強会（検討会）	

- 「かながわSDGsアクションファンド」との連携をめざす

目的

- かながわSDGsパートナー向けプラットフォーム「かながわSDGsアクションファンド」（新設）に、本事業の考え方を取り込む。
- 同ファンドにおけるSDGs社会的インパクトの可視化モデルを構築する。



本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)

1-1 全体進捗

1-2 各進捗報告

(1) 調査

(2) 実証事業

(3) 研修 (入門編)

(4) 研修 (実践編)

2. 点から面的展開に向けて (30分議論)

3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 第1回を9月29日に実施 (最大同時視聴者数 : 122名、延べ視聴者数 : 144名、申込者数 : 183名)
- アンケート回答数119。SIMについて学びたい、学べたという回答はいずれも8割超

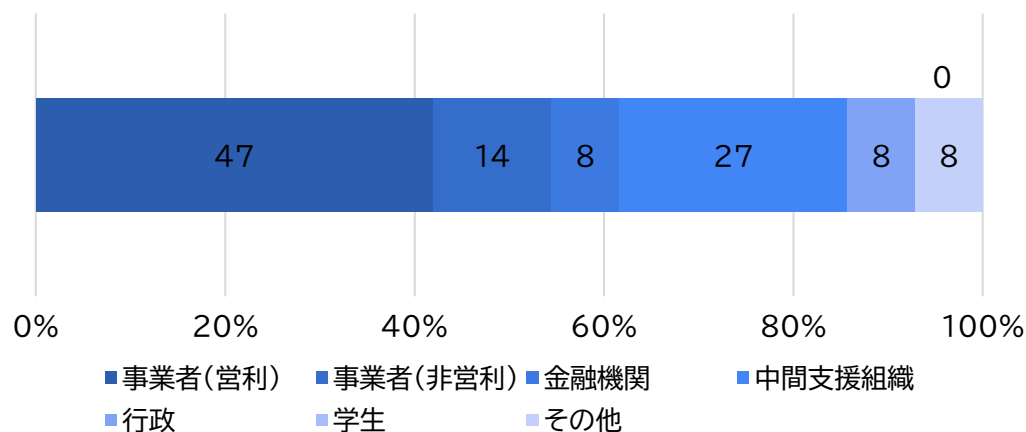
実施概要

最大同時 視聴者数	122名	申込者数	183名
延べ 視聴者数	144名		

アンケート結果①

アンケート 回答数	119
--------------	-----

回答者の内、事業者 (営利)、中間支援組織、事業者 (非営利) の順で参加者が多かった。

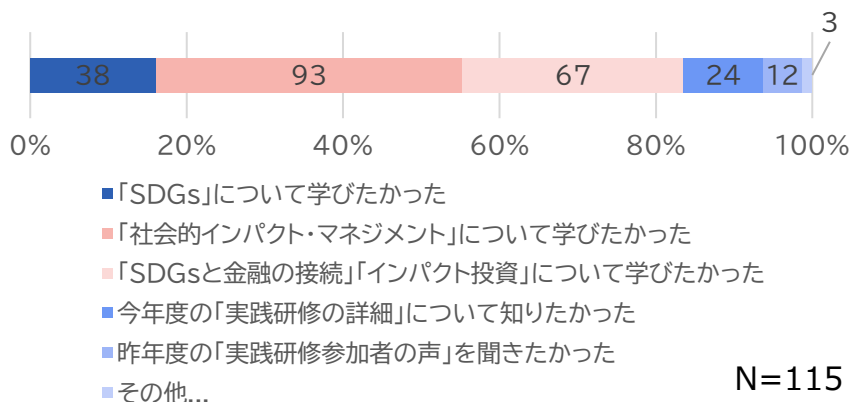


N=112

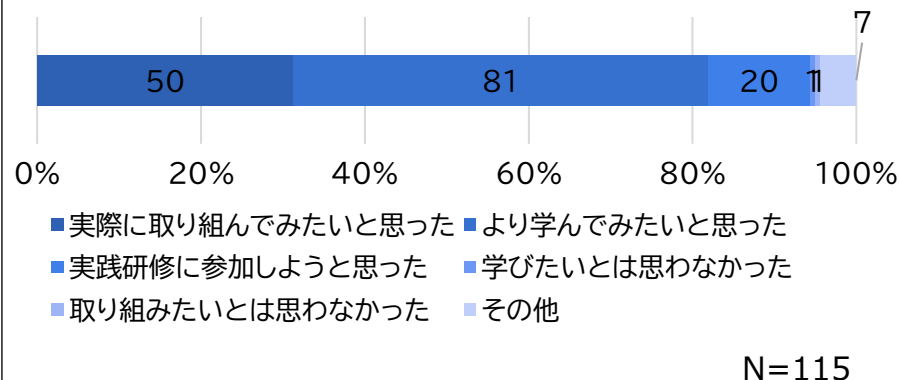


- SIM、SDGsと金融、インパクト投資について学びたいという期待が多く、それらをよく聞いた、聞いたの声は8割を超え、今後取り組みたいという人は約8割を超えた

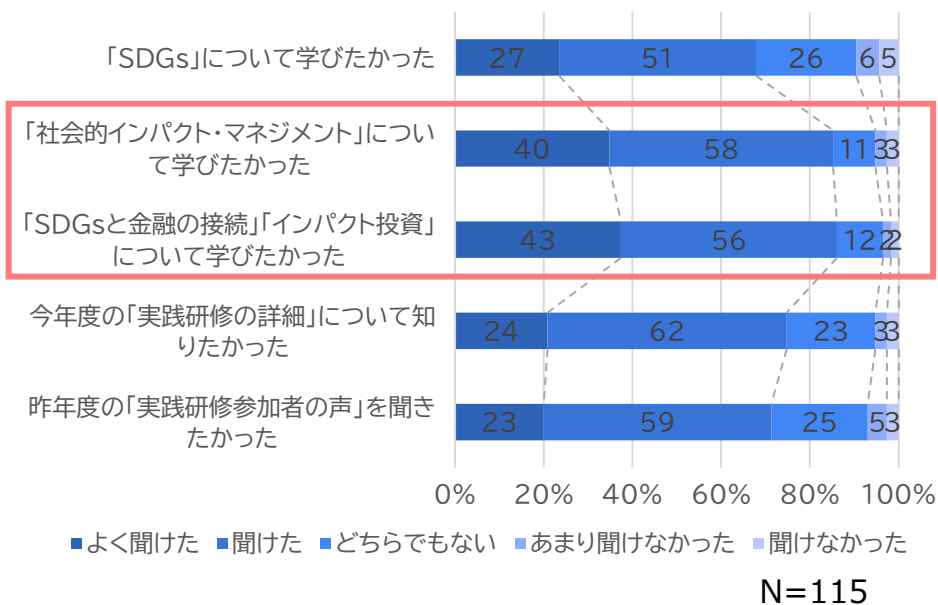
研修への期待



今後の意向



研修での理解・学び



フリーコメント

インパクト投資の状況・仕組みなど非常に説明がわかりやすく、黄さんのお話が大変勉強になりました。

短い時間の中、専門的な情報かつ量が多く、正直、黄さんのお話などは半分くらいしか理解できていないかもしれません。

SDGsと投資との関係について現状を知ることができた「SDGsと金融の接続」「インパクト投資」について分かり易かったです。

実践例がもう少し欲しい

面白かったです。ぜひ研修に参加してみたいです。

SDGs・事業経営は社会に役立てるためであり、投資いただくために事業しているわけではない。金融に寄りすぎているのではないですか？

- 第2回の入門編では、具体的な実施プロセスの一部を学んでいただくこと、ガイドを知っていただくことを目的に開催する

タイトル	神奈川県主催 体験型セミナー「SDGsを実践するには」 ～事業の「社会的価値」をどう可視化するか?～		
目的	参加者がロジックモデル作成のプロセスを体験し、興味を持つ 昨年度作成のガイドへの誘導		
対象者	金融機関、事業者、中間支援等に限らず、組織内外で社会的インパクト・マネジメントを具体的に実施したいと思っている方、200名を想定		
日時	2020年12月3日(木) 17:00~18:30(予定)		
コンテンツ	1. 神奈川県ご挨拶、全体像説明 (SDGsパートナーへの誘導含む)	5分	
	2. SIMのレクチャー、事例紹介 (インターネットインフィニティ)	20分	
	3. ロジックモデル作成ワークショップ	50分	
	・ 説明、ロジックモデルの例題	(10分)	
	・ 個人ワーク	(20分)	
	・ 公開フィードバックと解説 (実践研修参加者とケースリー)	(20分)	
	4. お知らせと質疑応答		15分

本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (共有 + 議論 55分)

1-1 全体進捗

1-2 各進捗報告

(1) 調査

(2) 実証事業

(3) 研修 (入門編)

(4) 研修 (実践編)

2. 点から面的展開に向けて (30分議論)

3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 9月～10月にかけて実践編参加者の募集、選考を実施
- 18社の応募中、11社を採択し、神奈川県を加えて12の組織で研修を11月5日より開始

選考プロセス・審査項目

選考
プロセス

2020年 9月18日（金） 募集開始
 2020年 10月6日（火） 実践研修説明会開催
 2020年 10月16日（金） 募集締め切り
 2020年 10月中旬 一次審査（書類審査）
 2020年 10月下旬 二次審査（オンライン面接）
 2020年 10月27日（火） 選考結果連絡
 2020年 11月～1月 研修期間（全5回 11/5、
 11/20、12/4、1/8、1/22）
 2021年 2月 公開発表（予定）※神奈川SDGs
 インパクト・マネジメント・マネジャー認定

審査項目

- 審査項目①【組織としての目的意識】
研修参加の目的（事業改善 or 資金調達）がはっきりして
いて、本研修の提供価値とマッチしているか。
- 審査項目②【組織としてのコミットメント】
組織として本研修にコミットしているか。（意思決定者
が全日程参加できるか。）
- 審査項目③【社会的価値創出の志向性】
対象事業が実際に社会的価値の創出を志向しているか
（SDGs達成への貢献意欲）。社会貢献ではなく、本業で
行っているか。など考えているか。
- 審査項目④【事業タイミングの適切性】
研修期間内に事業実施が行われるか。その変化も含めて、
研修期間内にどれだけデータを取得できるか。

選考結果

- 応募総数：18社
- 一次審査通過：15社
- 二次審査通過：11社

組織名	資金調達・ 事業改善・新規事業	分野
石渡住宅サービス合同会社	事業改善	住宅賃貸／環境
アグリマス株式会社	事業改善	介護予防／地域創生事業
キャリアフィールド株式会社	事業改善	保育
株式会社カルティブ	事業改善	地方創世
大和シルフィード株式会社	事業改善	スポーツ／女性活躍
株式会社 藤枝MYFC	事業改善	スポーツ／健康増進
株式会社 ケイ・システム	資金調達	廃棄物処理
株式会社 レスティル	資金調達	地域経済活性化
NPO法人 ことばとこころの部屋	資金調達、新規事業	場づくり／生保受給者
特定非営利活動法人 ユースポート横濱	新規事業	若者就労
株式会社 福山コンサルタント	やや新規事業	まちづくり
神奈川県	事業改善	地域づくり

- 全体目標を各回設定し、加えて個別目標を設定する（資金提供者にコンタクトを取るなど）。目標を踏まえた上でのコンテンツ、時間配分を設計

研修回数	目標（記入済みは全体目標）
第1回	①研修における各々の到達目標を明示する
	②SDGs×SIMの全体像を知る
	③ロジックモデルの作成方法を知る
	個別目標：
第1回～2回の間	各社、各事業のロジックモデルのたたき台を作成する
	個別目標：
第2回	①各社／各事業のロジックモデルを作成する
	②データ収集計画について知る
	個別目標：
第2回～3回の間	各社、各事業のデータ収集計画のたたき台を作成する。組織内のリソース確保を検討する
	個別目標：

研修回数	目標（記入済みは全体目標）
第3回	①データ収集計画を作成する
	②関係者からのフィードバック
	③ロジックモデル、データ収集計画の更新
	個別目標：
第3回～4回の間	（データを収集する） 最終発表資料のたたき台を作成する
	個別目標：
第4回	①データ分析・まとめの方法を知る
	②最終発表資料を作成する
	個別目標：
第4回～5回の間	最終発表資料を作成する
	個別目標：
第5回	①最終成果を発表する
	②今後の展望を表明する
	個別目標：

- 全体の目標や個別目標を設定することで、各プロセスを具体的に設計する
- プロセスにおいて重要だったことをガイド更新に活用

- 目標を踏まえた上でレクチャー、ワーク、メンタリングを設定

時間	コンテンツ			メンバー/部屋	活用する資料
	レクチャー	ワーク等	メンタリング		
約10時間	各社の研修におけるゴール設定と計画策定のたたき台を作成する			各社	研修のゴール設定・進め方シート
14:00~14:05	神奈川県からのご挨拶	—	—	全員	—
14:05~14:20	本研修の狙いについて	自己紹介・アイスブレイク	—	全員	レクチャー資料
14:20~14:35	・SDGs×SIMとは? ・フレームワークの紹介 ・ロジックモデルとは	質疑応答	—	全員	レクチャー資料
14:35~15:05	—	—	各社のゴール設定と計画策定(各社10分)	ブレイクアウトルーム(メンター4名)	研修のゴール設定・進め方シート
15:05~15:20	—	各社の参加者ゴール設定の発表(各社2分、振り返り5分)	—	—	研修のゴール設定・進め方シート
15:20~15:30	休憩			—	—
15:30~15:55	—	ロジックモデルミニワーク(概要説明、ダメな事例、アウトプットとアウトカムの違い、変化のロジカルさ、アウトカムの表現に関する注意点)	—	全員	ロジックモデル作成ワークシート
15:55~16:50	—	—	ロジックモデル作成支援(個別事業の最終アウトカム)(各社15~20分)	ブレイクアウトルーム(メンター4名)	ロジックモデル作成ワークシート
16:50~17:00	次回までの宿題説明、チェックアウト	—	—	全員	ロジックモデル作成ワークシート
17:00~17:30	懇親会			—	—
第2回~第3回の間(宿題)	各社、各事業の指標計画のたたき台を作成する →11/27までにピアラーニングで提出、やり取り →12/3までに提出			各社	データ収集計画ワークシート

本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (25分共有→30分議論)
 - 1-1 全体進捗
 - 1-2 各進捗報告
 - (1) 調査
 - (2) 実証事業
 - (3) 研修 (入門編)
 - (4) 研修 (実践編)
2. 点から面的展開に向けて (30分議論)
3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 以下、本事業において検討している主な取組み。更なるアイデアについて議論したい

ネットワーク形成

- 関係者間のネットワーク形成・活性化（研修参加者－実証参加者－委員）
- かながわSDGsパートナーとの連携（MS実証、研修参加→パートナー）

金融機関の 巻き込み

- 金融における実証の実施（事例形成、社内への浸透）
- （資金調達ニーズのある）研修参加者×資金提供者の対話（→事例形成）

ツール浸透

- 研修入門編・実践編での活用
- 実践編を経た、ガイドの改訂・公開

本日のアジェンダ

1. 事業の現在地点と今後について (25分共有→30分議論)
 - 1-1 全体進捗
 - 1-2 各進捗報告
 - (1) 調査
 - (2) 実証事業
 - (3) 研修 (入門編)
 - (4) 研修 (実践編)
2. 点から面的展開に向けて (30分議論)
3. 来年度以降の自走化に向けて (30分議論)

- 以下、来年度以降の自走化に向けた課題と提言。更なるアイデアについて議論したい

SDGsの主流化

- SDGsの入口（SIMの前段階）の拡大
- 民間組織が活用している自治体の他事業・他施策等へのSDGsの組み込み

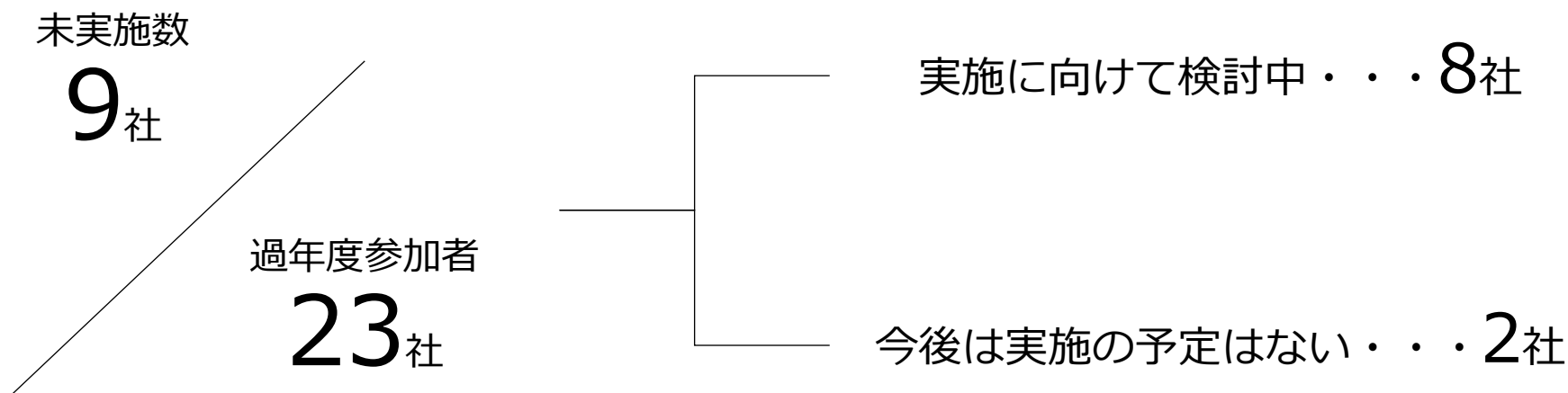
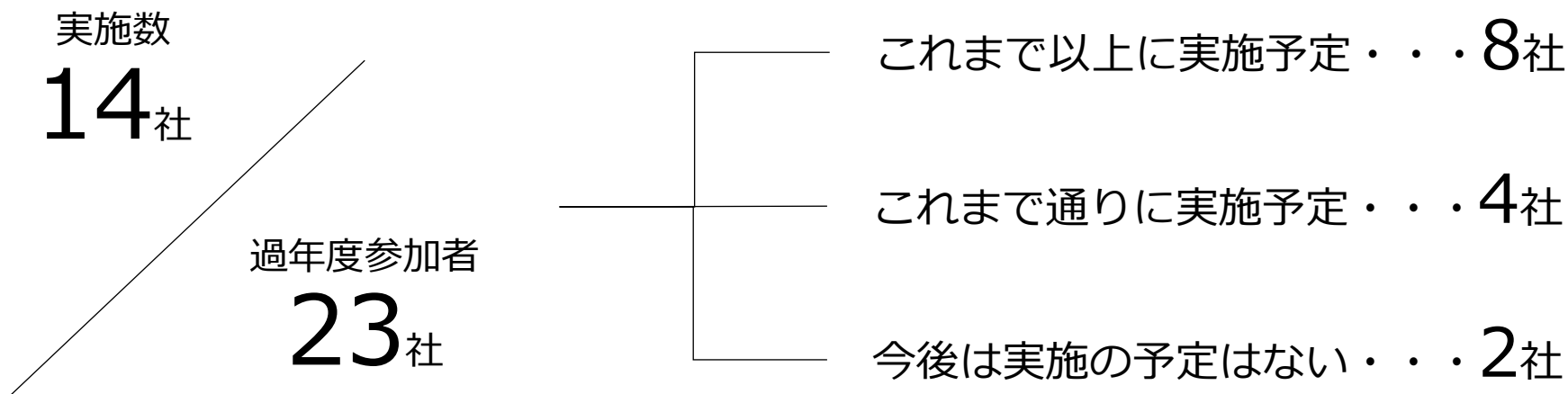
普及から 定着・拡大へ

- 人から組織へ（組織内の機運醸成、理解の浸透、ノウハウ整備等）
- 実践者／組織の維持・拡大（継続的な勉強会・事例共有のネットワーク等）
- 実践支援（受け皿づくり）、インセンティブ設計

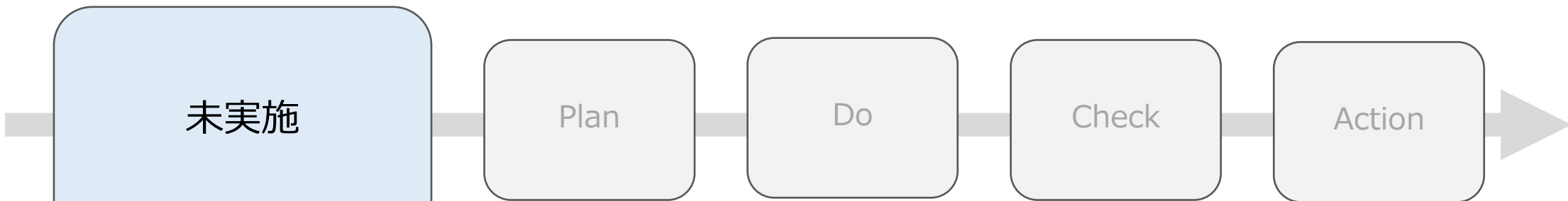
環境・制度 整備

- 実践・継続のためのリソースやコスト支援
- 行政評価との接合
- 日本版レポーティングの標準化

以下、参考資料



9社/23社



<課題>

- SIM実施に充てる**リソース（資金、時間、労力）が不足**している
- **SIM実施の意義や目的が組織内で共有**されていない

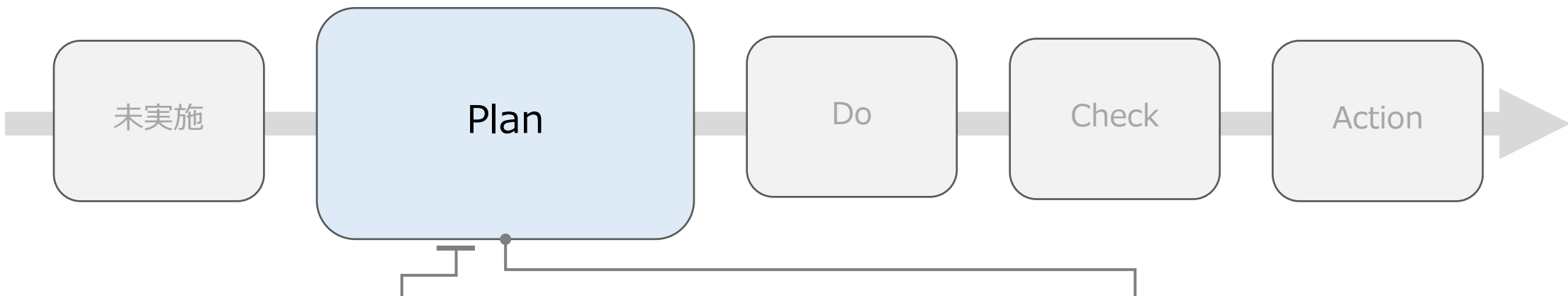
<実施を検討している理由>

- 組織メンバーの事業目的や成果に対する理解を促進し、士気を向上させるため
- 事業目的と事業のロジックを組み立てて、事業内容や運営方法の改善に利用するため

<考えられる対策>

- リソースの自治体からの支援、金融機関、大学機関等とのマッチングによる支援
- SIM実施の意義や目的の普及啓発、金融機関によるインセンティブ設計

14社/23社



- <課題>
- 作成したロジックモデルを**組織内の共通認識・言語にできていない**
 - 十分なデータの収集ができていない
 - **指標データの蓋然性確認にコストがかかる**

- <うまくいっている点>
- 目的の明確化、対象事業の確認、社会課題の分析の実施
 - 経営陣がSIMの実施に意欲的である
 - 組織内でSIMの意義が共有されている

- <考えられる対策>
- 優良事例の（分野・対象ごと）積極的公開
 - 自治体施策アウトカム・指標の公開、データインフラ構築

7社/23社

未実施

Plan

Do

Check

Action

<課題>

- **定量化しやすい指標とそうでない指標があり、データ収集状況に差がある**
- データ収集と分析の**基礎知識などスキルが足りていない**

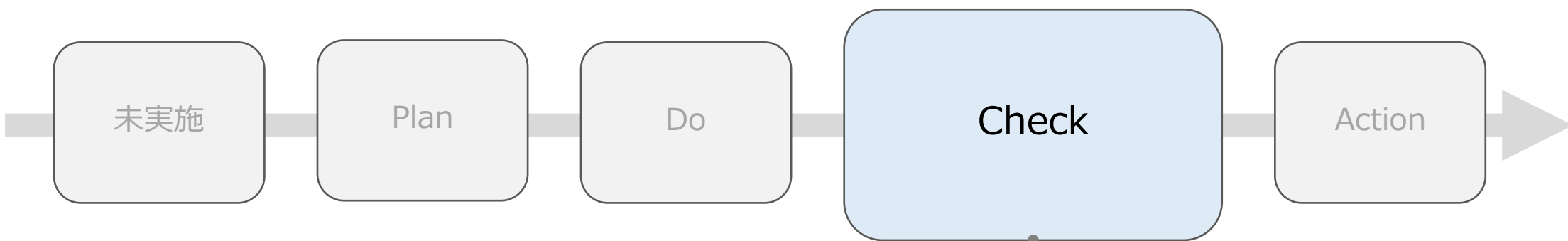
<うまくいっている点>

- 実際の事業において、データの収集を行っている
- 経営陣はSIMの実施に意欲的である

<考えられる対策>

- リソースの自治体からの支援、金融機関、大学機関等とのマッチングによる支援
- 優良事例の（分野・対象ごと）積極的公開
- 自治体施策アウトカム・指標の公開、データインフラ構築

6社/23社



<課題>

- 測定指標の十分な分析の不足
- 第三者から見て評価に値する分析

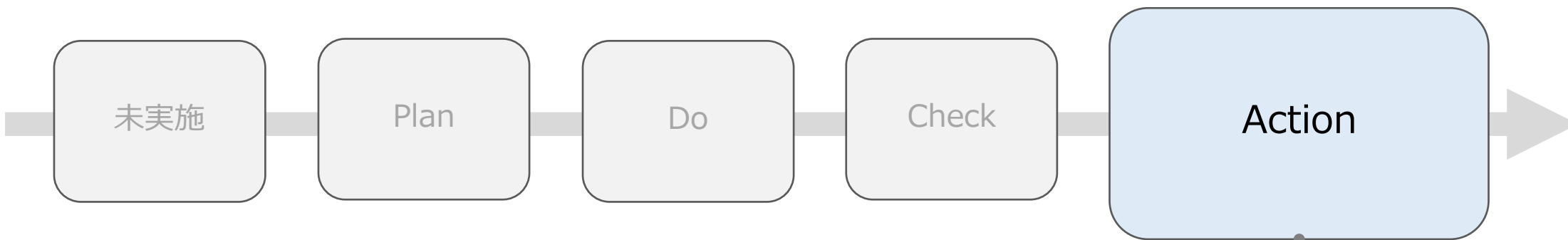
<うまくいっている点>

- データ収集等の実施体制について関係者と協力関係が構築されている
- SIM実施に充てるリソース（資金、時間、労力）が確保されている

<考えられる対策>

- リソースの自治体からの支援、金融機関、大学機関等とのマッチングによる支援
- 優良事例の（分野・対象ごと）積極的公開
- 自治体施策アウトカム・指標の公開、データインフラ構築

6社/23社



- <課題>
- 分析結果に基づく、改善策の検討と実行
 - 他組織の巻き込み
 - 現場担当者の変更への対応

- <うまくいっている点>
- 分析結果のステークホルダーへの報告
 - SIM実施の意義が組織内外で共有され、活用に向けて対話ができる関係性や土壌がある
 - 経営陣も従業員もSIMの実施に意欲的である

- <考えられる対策>
- リソースの自治体からの支援、金融機関、大学機関等とのマッチングによる支援
 - 優良事例の（分野・対象ごと）積極的公開
 - 解釈、活用における組織内におけるプロセスを明確にしたガイドの改定

A-1: 第1回検討委員会 討議資料 (2020年9月2日)

A-2: 第2回検討委員会 討議資料 (2020年11月6日)

A-3: 第3回検討委員会 討議資料 (2020年12月23日)

A-4: 第4回検討委員会 討議資料 (2021年2月19日)

神奈川県

2020年度 SDGs社会的インパクト評価実証事業
検討委員会 (第3回)

2020年12月23日

本日のご参加者

検討委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
今田 克司	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
大井 千佳生	株式会社横浜銀行	地域戦略統括部 担当部長
幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
志波 崇裕	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
黄 春梅	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
山口 健太郎	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

オブザーバー（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
大庭 千明	かながわ信用金庫	経営企画部
小瀧 歩	アグリマス株式会社	代表取締役
小坪 拓也	株式会社カルティブ	
竹田 憲一	一般社団法人PMI日本支部	
照沼 大	日本ベンチャーキャピタル株式会社	執行役員兼ベンチャーキャピタリスト

1. 進捗共有 . . . 20分

2. 議論 . . . 90分

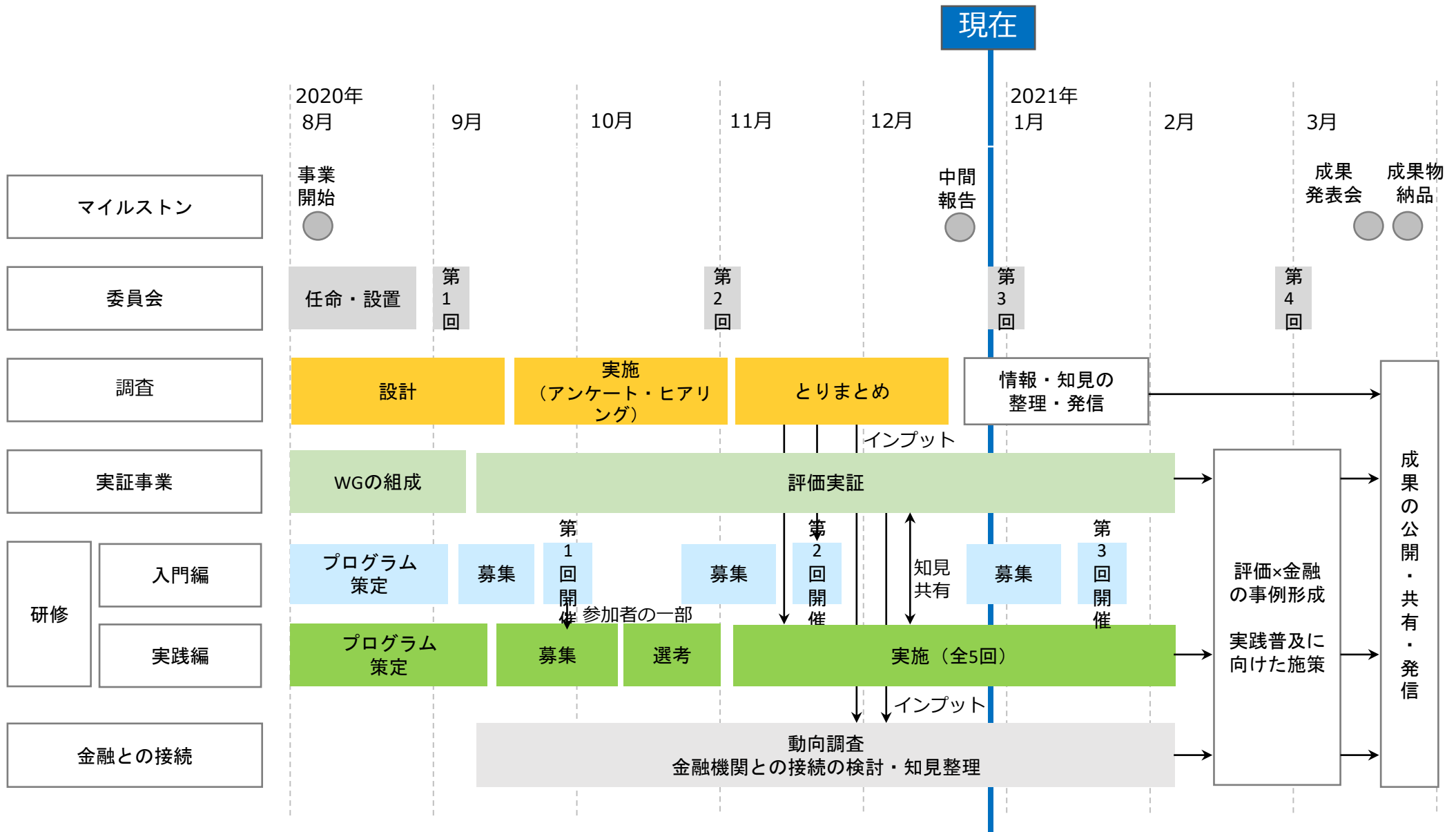
3. 次回日程の確認 . . . 5分

1. 進捗共有 . . . 20分

2. 議論 . . . 90分

3. 次回日程の確認 . . . 5分

- 概ね予定通りに進捗。



- 12月3日、入門研修（第2回）を開催。

コンセプト

- ・ SIM入門編（主に事業者向け）
- ・ ロジックモデルの事例よりも「作成プロセス」の共有に主眼。
- ・ 実例を基に、事業性+社会性（本業を通じたSDGs貢献）の考え方を伝える

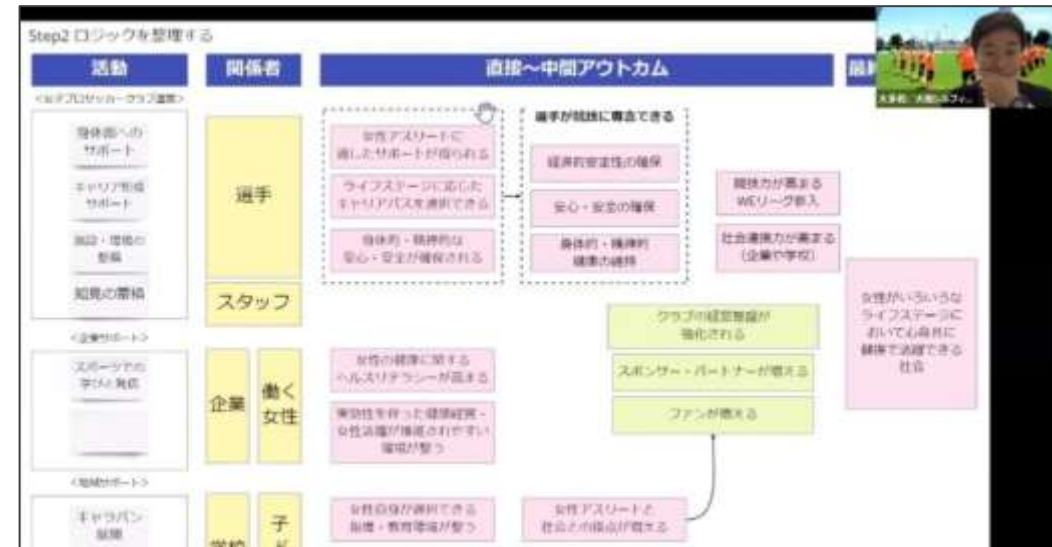
中身

実践研修参加者、大和シルフィード（代表 大多和氏）に登場いただき、女子サッカーをめぐる課題に対してどのように事業を通じた解決をめざすかについて、その場でロジックモデルを作成。

神奈川県主催 オンラインセミナー
SDGsを実践する方法を学ぶ
 事業の「社会的価値」をどう可視化するか

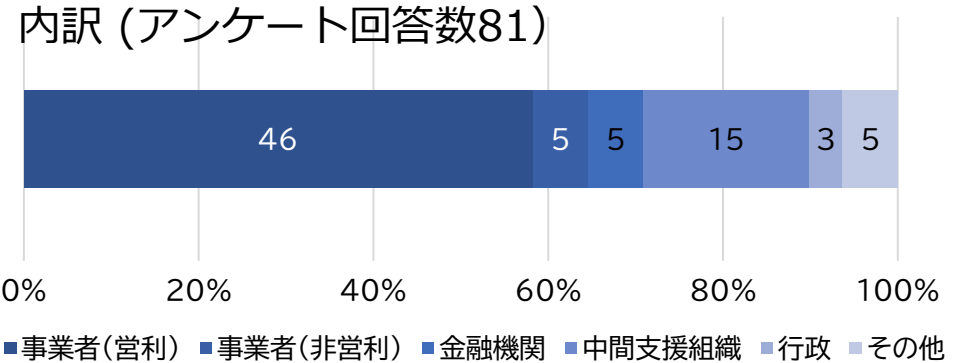
2020/12/3(木)
 17:00-18:30
 zoom開催
 定員200名(先着順)

山口健太郎氏 (神奈川県理事 いのち・SDGs担当)
 大多和亮介氏 (大和シルフィード株式会社 代表取締役社長)
 今尾江美子氏 (ケイスリー株式会社)
 栗野泰成氏 (ケイスリー株式会社)

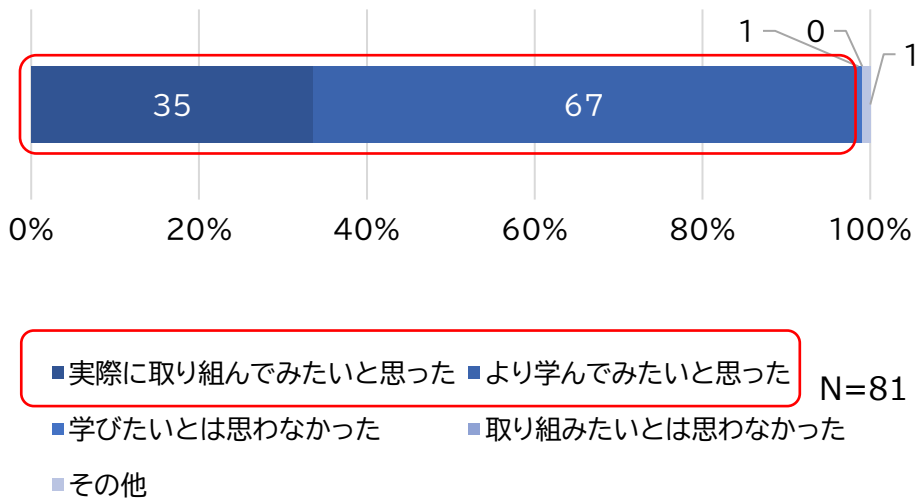


- 入門編として、SIMの理解向上・普及には一定の成果をあげられた。

申込者数 159名
視聴者数 最大同時：105名
 のべ：111名



セミナーに参加して・・・



自由コメント

短時間にも関わらず、ロジックモデルのイメージが非常にわかりやすかった。

出来上がったロジックモデルを見たことはあっても、どのように作るかはよく知らなかったなので、とても勉強になった。

実際に事業者さんと話しながら進めるライブ感があり、楽しかった。もっとも印象的だったのは、大和シルフィードさんの素晴らしい取り組みを知れたことだった。

今までの各種SDGsセミナーのなかで、最も具体的でわかりやすかった

自社であればどう変換できるのか、1つ1つ考えながら聴いた。このようなプロセスを無料で公開してくださったことに感謝。

まだまだスタートラインに立ったばかりで右も左もわからない企業に対して、もう少し簡単なもの（sdgsとはみたいなもの）も常設的に動画を拝見できる機会が欲しい。

- ・ 入門研修（第3回）の企画・準備中。

対象者・
コンセプト
(検討中)

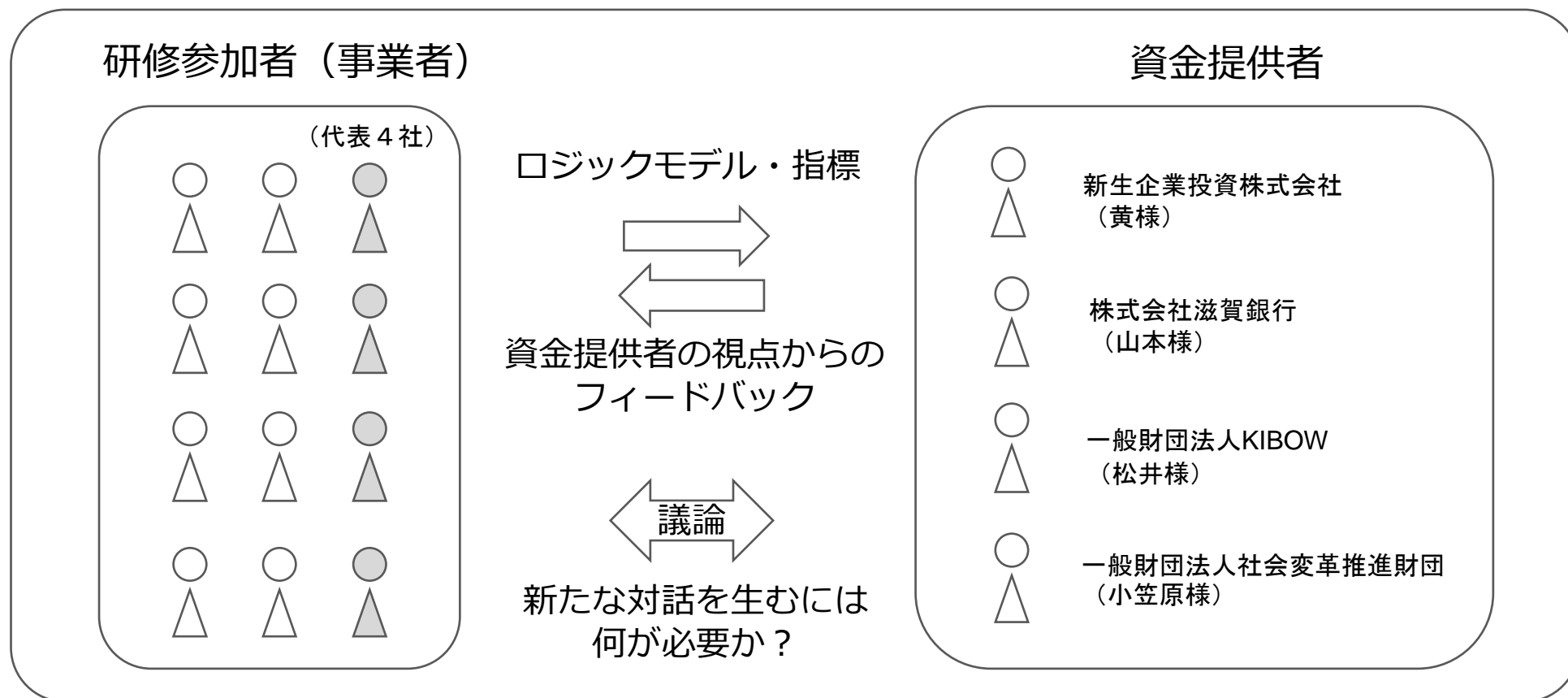
- ・ SIM入門編
ターゲット (A) 事業者、(B) 事業者+金融機関、(C) 金融機関
 - － (A) SIM導入の体験型セミナー
 - － (B) 事業者と金融機関セットで登壇、SIMをどのように今後の対話に使うかを議論する。
 - － (C) SDGs×SIM×金融実践者は、どのように進めてきたのか。ゼロから試行錯誤してきたプロセスを深堀する。

日時
(予定)

2月4日（木）18時～19時半
オンライン（zoom）

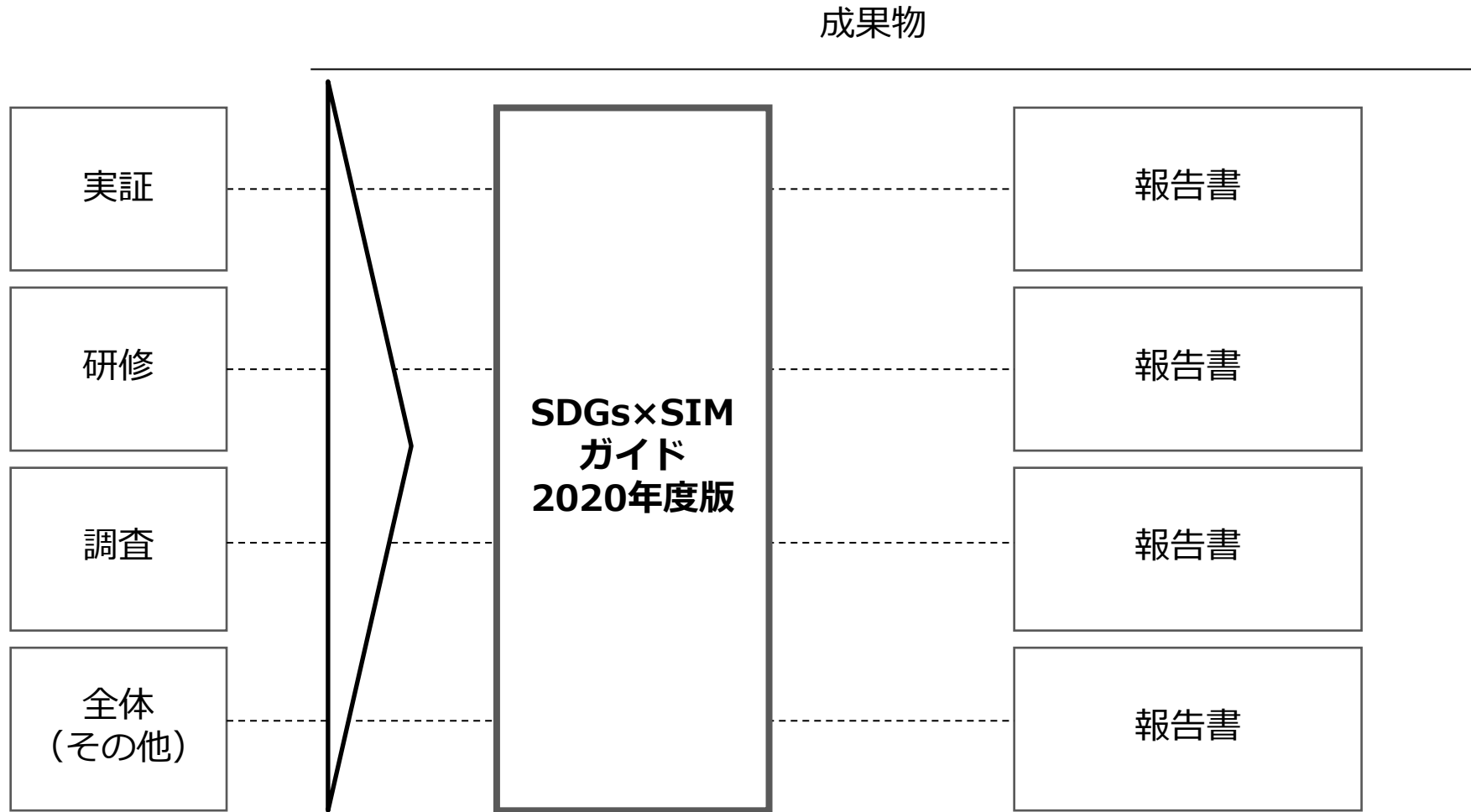
- （第4回 1/8）にて、資金提供者×事業者の対話を実施予定。

第4回 実践研修



SDGs推進に向けた、事業者×資金提供者の新たな
関係構築のために必要な要素を抽出

- 事業全体の成果として、“使える”「SDGs×SIMガイド」(2020年度版)を制作する。



目次／アジェンダ

1. 進捗共有 . . . 20分

2. 議論 . . . 90分

3. 次回日程の確認 . . . 5分

今後に向けた必要な取組み

- 1) 金融機関・事業者が取り組むべきこと
- 2) 行政が取り組むべきこと
- 3) 今年度事業において取り組むべきこと

- 調査・研修から、事業者がSIM×SDGs推進において重要となる点、課題、実践に対する提言やヒントが見えてきた

推進において重要となる点	課題	実践提言・ヒント
<p>1</p> <p>組織内外の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> SIMの重要性や意義を組織内外に理解してもらえない 一担当者による実践から、組織での実践に広がっていかない 	<ul style="list-style-type: none"> 初期段階から経営層を巻き込む 勉強会を開き、仲間を増やす 行政や国連からの啓発、消費者意識など、外部要因による後押しを活かす
<p>2</p> <p>リソース確保・体制づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> SIMを実施する資金や人的リソースが不足している、負担が大きい 一度実施したが、継続できなかった。担当者が替わり、取り組みが途切れてしまった 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、資金循環の環境が整うことを受け、リソースを確保しやすくなる可能性はある 専門の中間支援組織を利用する 専任の担当者、担当部署を設置する。担当者は二名以上が望ましい
<p>3</p> <p>データ収集・データ分析の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデルや測定指標を立てたはいいがデータ収集が難しい、負担が大きい どのように集めたデータを分析し、有用な情報としてまとめたらいいかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> データ管理システムを導入する 事業プロセスに組み込む 専門スキルを持った人材を活用する 実践事例の報告書を参考にする

- 金融機関へのヒアリングから、SDGs×SIMの取組みに関する課題・需要、エコシステム形成に向けて必要なことが見えてきた

推進において
重要となる点

課題・需要

実践提言・ヒント

<p>1</p> <p>SDGs推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取引先企業からの、SDGs推進の具体的な取り組み方の相談 金融機関としてのSDGs推進体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> 投融資先のSDGsコンサルティング支援 潜在的投融資先も含めた、SDGs勉強会開催 経営陣が先陣を切って進める必要
<p>2</p> <p>マルチステークホルダー間連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会的価値を志向する金融機関と事業者のマッチング 行政との連携推進 	<ul style="list-style-type: none"> 産官学民連携のプラットフォームなど出合いの場 地域金融機関では、地域行政の優先課題と連携したSDGs推進
<p>3</p> <p>SIM、評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価コストの負荷や取り組みのハードルが高い 金融の規模によっては比較可能性の担保が必要だが、共通の評価軸設定が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みやすい身近なところから始める SDGsに紐づけた金融商品開発 小規模での比較可能性の担保は現状求められていない

- 金融機関における実証事業から、金融機関がハブとなってSDGs×SIMを広げる上での可能性と課題が見えてきた

	NVCC (ベンチャー投資)	かながわ信金 (融資)
意義・可能性	<ul style="list-style-type: none"> SDGsやインパクト志向の潮流 (投資判断に活用する以前に)、投資後の企業支援に活用できる可能性がある(企業のパーパスの再確認、組織強化など) Exitを見据えた差別化・付加価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> 事業性評価重視の潮流 (融資判断に活用する以前に) 融資先企業の経営支援、SDGs取組みのコンサルティングなどに活用できる可能性がある 企業の持続性や価値向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人の意識・行動を、組織的なものにするところにハードルがある 企業にとっての意義、投資家にとっての意義がまだ明らかでない(→現在、実証中) 具体的な方法論が見えていない(→来年以降のアクションプランを作成予定) 	<ul style="list-style-type: none"> 組織としての認知・理解向上 企業にとっての意義、信金にとっての意義がまだ明らかでない(→現在、実証中) 具体的な方法論が見えていない(→来年以降のアクションプランを作成予定)

- SIM、評価に関しては取り組みが少ない中、庁内職員含めた普及啓発、ステークホルダー間の連携を自発的に促す仕組みを重要視する自治体が多い。

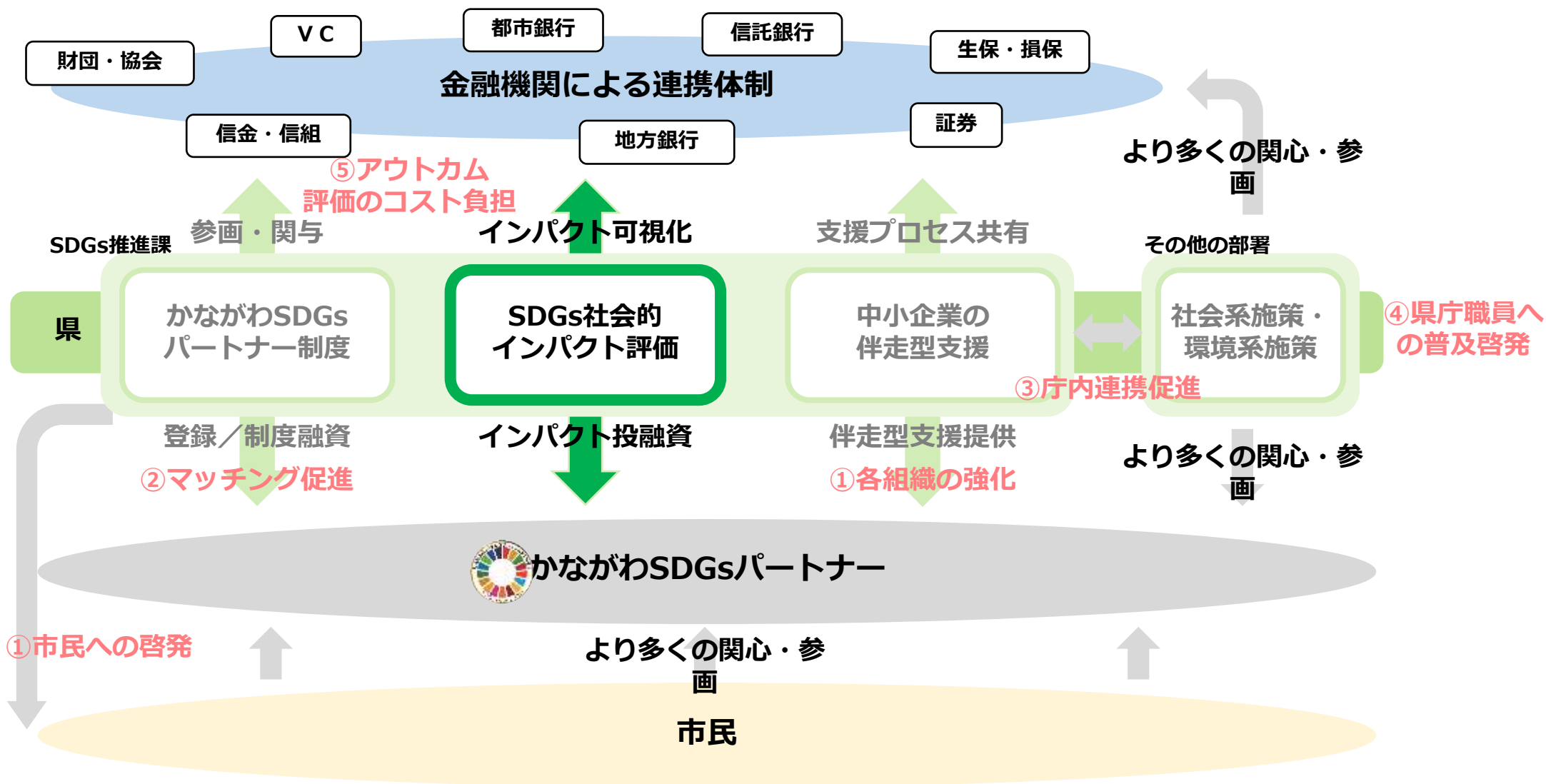
推進において
重要となる点

課題・需要

実践提言・ヒント

<p>1</p> <p>SDGs推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 市民への普及が企業等含む全体の推進に関わる可能性は高い • 担当の課を置いて推進する自治体はまだ多くない（リソースが不足） 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民への普及啓発に力を入れる自治体が複数あり、個人のSDGsパートナーを持つ自治体もある • 庁内全体で職員がSDGsの知見を高めることを重要視し、職員への啓発を進める自治体もある
<p>2</p> <p>マルチステークホルダー間連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 金融機関との連携については課題を抱える自治体が多く、取り組みが進んでいる自治体はない 	<ul style="list-style-type: none"> • ビジネスマッチングを商工会議所と連携して実施してる自治体もある • SDGsパートナー制度を活用したマッチングを試みる自治体もある
<p>3</p> <p>SIM、評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • アウトカム評価や事業評価については通常の基本計画等の中で指標設定をし、測定している自治体は多いが、SIMの枠組みを取り入れている自治体はない • 評価に関して積極的に取り入れていこうという意向が強い自治体は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> • 行政事業の中にあるアウトカム項目・指標を活用できるように整理し、行政側が評価を担えるようにする方向性もある • SDGsパートナー等の中にいる大学機関等が評価支援を担えるようにする

- ①各組織の人材育成・組織強化（市民への啓発含む）、②SDGsパートナー内などにおける自発性の高いマッチング促進、③庁内の他施策とのSDGs連携、④県庁職員の普及啓発、⑤アウトカム評価のコスト負担が挙げられた



今後に向けた必要な取組み

- 1) 金融機関・事業者が取り組むべきこと
- 2) 行政が取り組むべきこと
- 3) 今年度事業において取り組むべきこと

1. 進捗共有 . . . 20分

2. 議論 . . . 90分

3. 次回日程の確認 . . . 5分

3. 次回日程の確認

予定： 2月19日(金)15:00 – 17:00 オンライン開催

參考資料

課題

実践提言・ヒント

組織内外の
理解

- SIMの重要性や意義を理解してもらえない
- 一担当者による実践から、組織での実践に広がっていかない

- 初期段階から経営層を巻き込む
- 勉強会を開き、仲間を増やす
- 行政や国連からの啓発、消費者意識など、外部要因による後押しを活かす

初期段階から経営層を巻き込む：

- SIMを始めたり、取り組みを継続・拡大していくためには、特に経営層の巻き込みが重要である。株式会社インターネットインフィニティーでは、**経営層がSIMの実践メンバーに加わっており、経営層⇔経営企画部・事業部⇔現場**の共通認識組成をスムーズにしている。
- 経営層がSIMの実践に関わるのが難しい場合であっても、**報告会のような形で、実施意義や成果を経営層に共有することから始めることができる。**

勉強会を開き、仲間を増やす：

- NPO法人キッズドアでは、一事業の一人の担当者からSIMの取り組みが始まったが、**組織の中で勉強会の開催を重ね、他の事業でもSIMに関心を持ち自発的に動ける人を増やしていくこと**で、組織での動きに広がっていった。

外部要因による後押し：

- 行政や金融機関への提言で対応

課題

実践提言・ヒント

組織内外の
理解

- SIMの重要性や意義を理解してもらえない
- 一担当者による実践から、組織での実践に広がっていかない

- 初期段階から経営層を巻き込む
- 勉強会を開き、仲間を増やす
- 行政や国連からの啓発、消費者意識など、外部要因による後押しを活かす

初期段階から経営層を巻き込む：

- SIMを始めたり、取り組みを継続・拡大していくためには、特に経営層の巻き込みが重要である。株式会社インターネットインフィニティーでは、**経営層がSIMの実践メンバーに加わっており、経営層⇔経営企画部・事業部⇔現場**の共通認識組成をスムーズにしている。
- 経営層がSIMの実践に関わるのが難しい場合であっても、**報告会のような形で、実施意義や成果を経営層に共有することから始めることができる。**

勉強会を開き、仲間を増やす：

- NPO法人キッズドアでは、一事業の一人の担当者からSIMの取り組みが始まったが、**組織の中で勉強会の開催を重ね、他の事業でもSIMに関心を持ち自発的に動ける人を増やしていくこと**で、組織での動きに広がっていった。

外部要因による後押し：

- 行政や金融機関への提言で対応

外部要因の後押し：

- 行政や金融機関への提言で対応

専門の中間支援組織を利用する：

- 自社のみでSIMを実践することが難しい場合には、専門の中間支援組織を頼ることも一つの手段である。どのような専門家や組織がいるかは、下記のサイトが一つの参考になる。

【一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ ホームページ】

https://simi.or.jp/support/advisor_evaluator

リソース確保
・体制づくり

- SIMを実施する資金や人的リソースが不足している、負担が大きい
- 一度実施したが、継続できなかった。担当者が替わり、取り組みが途切れてしまった
- 外部要因の後押しを受け、リソースを確保しやすくなる可能性はある
- 専門の中間支援組織を利用する
- 専任の担当者、担当部署を設置する。担当者は二名以上が望ましい

専任の担当者、担当部署の設置する：

- 株式会社TBMではサステナビリティ専任者を二名配置し、関係する工場の環境データの集約や環境負荷の計算といったSIM実施に係る業務を行うと同時に、社内の巻き込みや実施意義の共有の役割も果たしている。
- 担当者が一名しかおらず、部署移動などで担当替えをした場合、うまく引継ぎがされずSIMの取り組みが途切れてしまうことがあるため、**担当者は二名以上いた方が望ましい。**

課題

実践提言・ヒント

データ管理システムを導入する・事業プロセスに組み込む：

- 実践者にとって大きな障壁の1つとなるのが、データ収集・分析の実施である。K2インターナショナルグループや株式会社インターネットインフィニティーでは、**データ管理システムを導入してデータの管理・蓄積を日常化したり、事業プロセスの中で有用なデータを恒常的に効率よく収集できるように、事業のプログラム構成を組み替える**などの工夫をしている。特にSIMを「継続する」という観点では、こうした仕組みづくりが重要になる。

実践事例の報告書を参考にする：

- どのような方向性で分析を行い情報をまとめていくか迷った場合には、他の実践事例の報告書などを参考にすると、イメージが付きやすくなる。
SIMI：XXXX、IMP：XXXX、

データ収集・
データ分析の
実施

- ロジックモデルや測定指標を立てたはいいがデータ収集が難しい、負担が大きい
- どのように集めたデータを分析し、有用な情報としてまとめたらいいかわからない
- データ管理システムを導入する
- 事業プロセスに組み込む
- 専門スキルを持った人材を活用する
- 他の事例の報告書を参考にする

課題・需要

実践提言・ヒント

SDGs推進

- 取引先企業からの、SDGs推進の具体的な取り組み方の相談
- 金融機関としてのSDGs推進体制構築

- 投融資先のSDGsコンサルティング支援
- 潜在的投融資先も含めた、SDGs勉強会開催
- 経営陣が先陣を切って進める必要

投融資先のSDGsコンサルティング支援：

- 滋賀銀行では、20年以上環境経営に取り組んできた歴史があり、取引先企業からSDGs推進に関する相談があったことから、SDGsコンサルを行っている。
- SDGsコンサルでは、目的設定の支援や、従業員を交えた勉強会や意見交換会で事業の存在意義を明らかにするというを行っている。事業とSDGsのゴールとの紐づけを行い、目指すべきマテリアリティを整理し、経営計画やKPIとして具体的な数値として設置している。

経営陣が先陣を切って推進：

- 滋賀銀行では、頭取がトップダウンで環境金融を進めてきた。経営陣が目標を提示して継続して取り組んできたことで社内の理解も進んできた。
- 地域金融機関に限らず、組織としての取り組みのためには経営陣の推進が必要である。

産官学民連携のプラットフォームなど出会いの場：

- 非上場投資では社会的価値を志向する企業が増えており、ピッチなどができるような出会いの場を設けることで、潜在的な投資先の発掘にもつながる。
- 北九州市などのような行政主導のプラットフォームだけでなく、地域金融機関が連携してプラットフォームを作り、地域としての連携を高めていくことも考えられる。

マルチステークホルダー間連携

- 社会的価値を志向する金融機関と事業者のマッチング
- 行政との連携推進
- 産官学民連携のプラットフォームなど出会いの場
- 地域金融機関では、地域行政の優先課題と連携したSDGs推進

地域行政の優先課題と連携したSDGs推進：

- 地域での取り組みを進めるにあたり、地域金融機関のミッションとして明確に、社会的インパクトやSDGsの取り組みによる地域の活性化を言語化することが重要。
- 行政目標とSDGsを紐づけている自治体が増えてきており、金融機関も地域課題に連動して経営支援や投融資を行うことがSDGs推進の第一歩となりえる。

課題・需要

実践提言・ヒント

取り組みやすい身近なところから始める：

- SDGsやインパクトを投融資に紐づけている金融機関も、できるところから始めている。例えばKIBOWでは、既存のガイドラインを参考にしながらも、完全に適用しようとするのではなく個別の会社に合った形で評価を行っている。

SDGsに紐づけた金融商品開発：

- 滋賀銀行では、SDGsのゴールに紐づいているかチェックできれば金利を下げるという融資プランや、より細かく事業のKPIを紐づけて成果に連動させて金利を下げる融資プランなどを持ち、SDGsの取り組みレベルに合わせた金融商品を開発している。

SIM、評価

- 評価コストの負荷や取り組みのハードルが高い
- 金融の規模によっては比較可能性の担保が必要だが、共通の評価軸設定が困難
- 取り組みやすい身近なところから始める
- SDGsに紐づけた金融商品開発

・ 各提言について、既存の他自治体事例や想定される具体的な施策についてまとめた

各提言	具体的な施策案	想定される効果	具体的事例等
①市民への啓発	SDGsパートナーへの市民の登録・参画を開始する 市民への啓発を推進するため、基礎自治体と連携する	市民としてパートナー参画にすることで、企業内での意識が高まる、市民としての活動（消費等）においての市民力向上につながる	北九州市、つくば市ではSDGsパートナーに個人参加があり、企業側としてだけでなく、市民としても登録している人がいる 大阪府は府下基礎自治体の大阪市や、隣接する広域自治体とも連携してSDGsの普及啓発に努める つながりポイント等含め、基礎自治体との結びつきを強化する
②マッチング促進	SDGsパートナー内での企業－企業や企業－金融機関のマッチングを促進 事業者からの相談窓口の受け皿を作り、そこから相談したい先や協働先を選択できるようなプラットフォームを構築する	より持続可能かつ自発的な形でSDGs推進、インパクトマネジメント推進が行われる	北九州市では、SDGsクラブの中でプロジェクトチーム立ち上げを推進しており、民間主体で複数の組織が連携し地域防災力を高めるプランなどが立案されている。また、金融機関との連携では17組織と市が協定締結し、コンサル的役割を中小企業とつなぐSDGs経営サポートを始めている（中小企業がエントリーシートを記入し、相談したい金融機関を選択、市がつなぎ役を行う）
③庁内連携促進	庁内他部署での施策・事業でSDGs関連付けの可能性があるもの（太陽光発電設備の共同購入事業、スマートエネルギー計画等）でつながりのある組織へSDGs×SIMの枠組み（ガイド提供等）、SDGsパートナーへの参画を促す	金融機関や事業者の視点からは、補助金等具体的なメリットがわかりやすい事業の方が、まず取り組みやすい可能性が高いため、より多くの組織にSDGs、SIMの推進を促せる	滋賀銀行からの提案（神奈川県太陽光発電設備協働購入や、長野県の環境配慮型住宅助成金を見て、金融機関としてSDGsに関して取り組みをまずするには良いだろうというところ）
④県庁職員への普及啓発	SDGs推進課だけでなく、庁内横断で職員がSDGsの知識、活用方法を身に着ける仕組みを作る	SDGs推進に直接関連する施策のみならず、多様な施策に関してSDGsを紐づけたマネジメントを推進できる可能性がある	沖縄県における知事発案のSDGsマスターズという仕組みがある。職員の中でSDGsに関心ある人たちが集まり、勉強会を行う形式
⑤アウトカム評価のコスト負担	県の施策で設定しているアウトカムや指標をSDGsで整理して公開し、SDGs推進事業等に活用できるようにする 評価支援を大学等他組織と連携して実施する	特に民間でSIM設計のハードルが高いとされた指標設計のコストが削減され、SIMが推進されるようになる SIMを支援する機関と行政として協働し、SDGsパートナー等が活用できるようになる	ヘルスケアでは未病指標、女性活躍推進では地域女性活躍推進交付金事業にある「25～44歳の女性の就業率」などを活用指標として公開する ヘルスケアニューフロンティアファンドにある事例等をまとめていく 北九州市SDGsクラブでは、大学が一部支援に入ることもあるため、SDGsパートナーの中でSIM支援の体制を整えることも考えられる

A-1: 第1回検討委員会 討議資料 (2020年9月2日)

A-2: 第2回検討委員会 討議資料 (2020年11月6日)

A-3: 第3回検討委員会 討議資料 (2020年12月23日)

A-4: 第4回検討委員会 討議資料 (2021年2月19日)

神奈川県

2020年度 SDGs社会的インパクト評価実証事業
検討委員会 (第4回)

2021年2月19日

本日のご参加者

検討委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属	役職
今田 克司	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
志波 崇裕	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
黄 春梅	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
船山 竜宏（山口理事代理）	神奈川県	政策局 制作部 政策調整担当課長
松村（大井委員代理）	株式会社横浜銀行	地域戦略統括部 グループ長
米原 あき	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

事業関係者/オブザーバー（五十音順、敬称略）

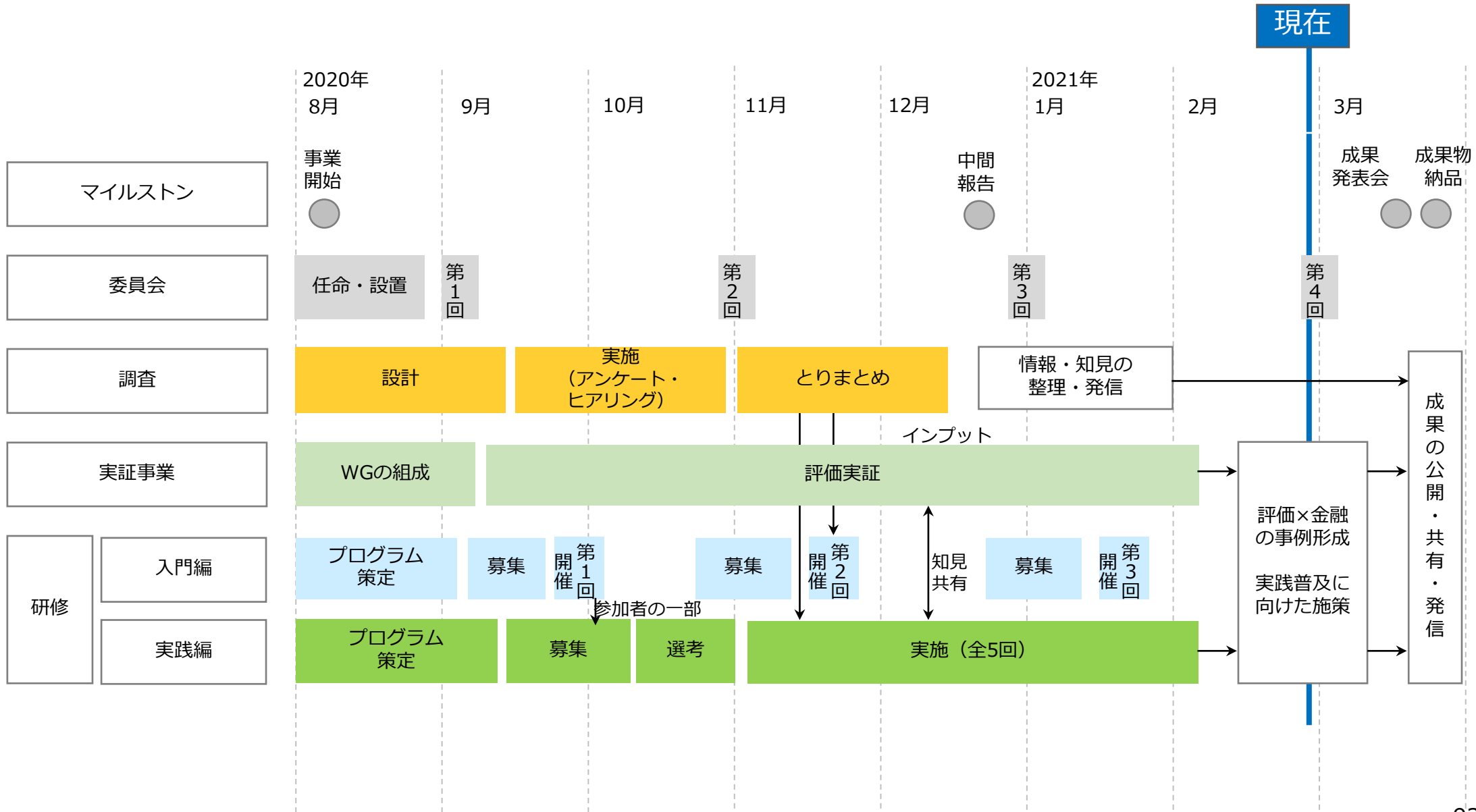
氏名	所属	役職
足立 直隆	株式会社レスティル	代表取締役
小島 啓義	株式会社ケイ・システム	代表取締役
照沼 大	日本ベンチャーキャピタル株式会社	執行役員兼ベンチャーキャピタリスト
苗村 貴宏	かながわ信用金庫	経営企画部 副部長
山本 英治	株式会社福山コンサルタント	本社事業部 地域計画グループ
渡邊 一弘	株式会社ケイ・システム	

1. 共有：3年間の取組みと成果（関係者の声、質疑応答を含む） . . . 30分
2. 相談：成果報告会について . . . 10分
3. 共有：神奈川県に来年度の取組み . . . 10分
4. 議論 . . . 60分

目次／アジェンダ

1. 共有：3年間の取組みと成果（関係者の声、質疑応答を含む） . . . 30分
2. 相談：成果報告会について . . . 10分
3. 共有：神奈川県に来年度の取組み . . . 10分
4. 議論 . . . 60分

- 概ね予定通りに進捗。但し、実証事業は継続中。



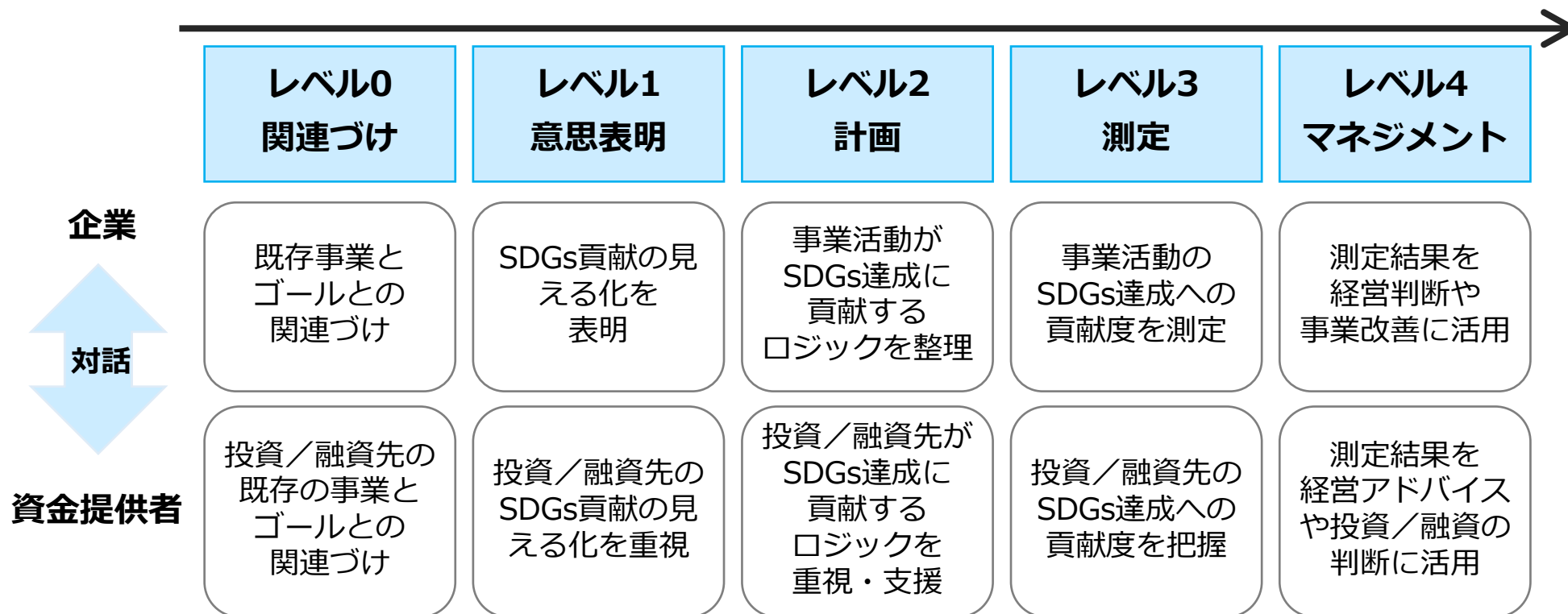
1-2 本事業の目的

- SDGs×社会的インパクト・マネジメントの実践により、事業者・資金提供者ともに質の高い「SDGs経営」※の実現をめざすことが期待できる。

※SDGs経営：本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています



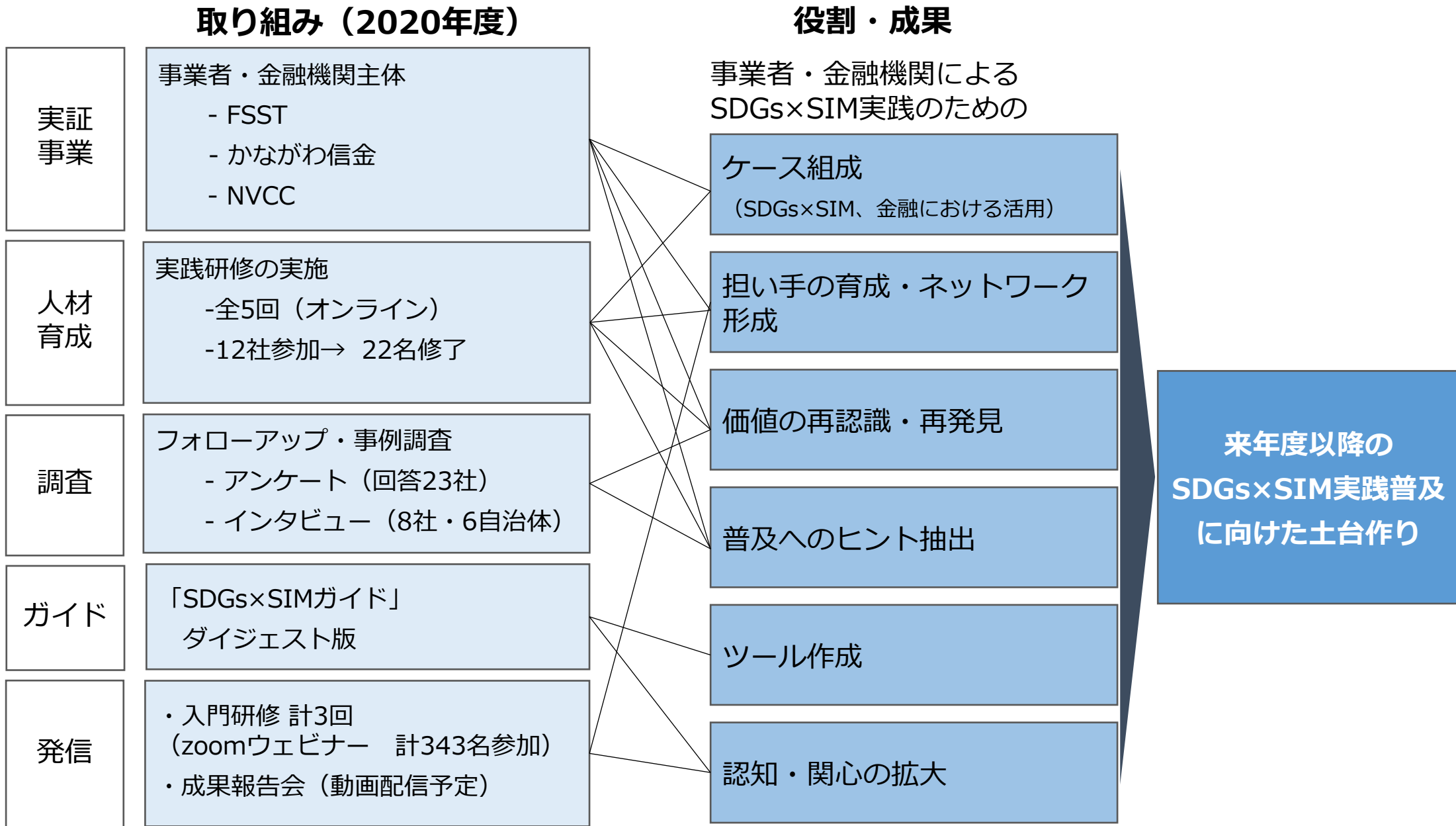
SDGs経営のレベルアップ



- 年ごとに取り組みが進化。

	2018年度	2019年度	2020年度
実証事業	事業者のみ -FSST -アルケア -K2インターナショナル	事業者主体、金融機関協力 -FSST -インターネットインフィニティー -リエゾンワークス	事業者・金融機関主体 - FSST - かながわ信金 - NVCC
人材育成	研修実施の準備 -求められる能力、技術の整理 -人材育成研修案の検討・作成	実践研修の実施 -全10回（オフライン） -25社参加→18名修了	実践研修の実施 -全5回（オンライン） -12社参加→22名修了 -出席率（平均86.2%）
調査	有識者へのヒアリング（16名）	SIM現状調査 - アンケート（回答81件） - インタビュー（5件）	フォローアップ・事例調査 - アンケート（回答23社） - インタビュー（8社・6自治体）
ガイド	「評価実践ガイド」初版	「SDGs×SIMガイド」（改訂） 導入編／実践編／事例編	「SDGs×SIMガイド」 ダイジェスト版
発信	成果報告会（216名参加）	・フォーラム（99名参加） ・公開セミナー①（78名参加） ・公開セミナー②（ライブ配信）	・入門研修 計3回 （zoomウェビナー 計343名参加） ・成果報告会（動画配信予定）

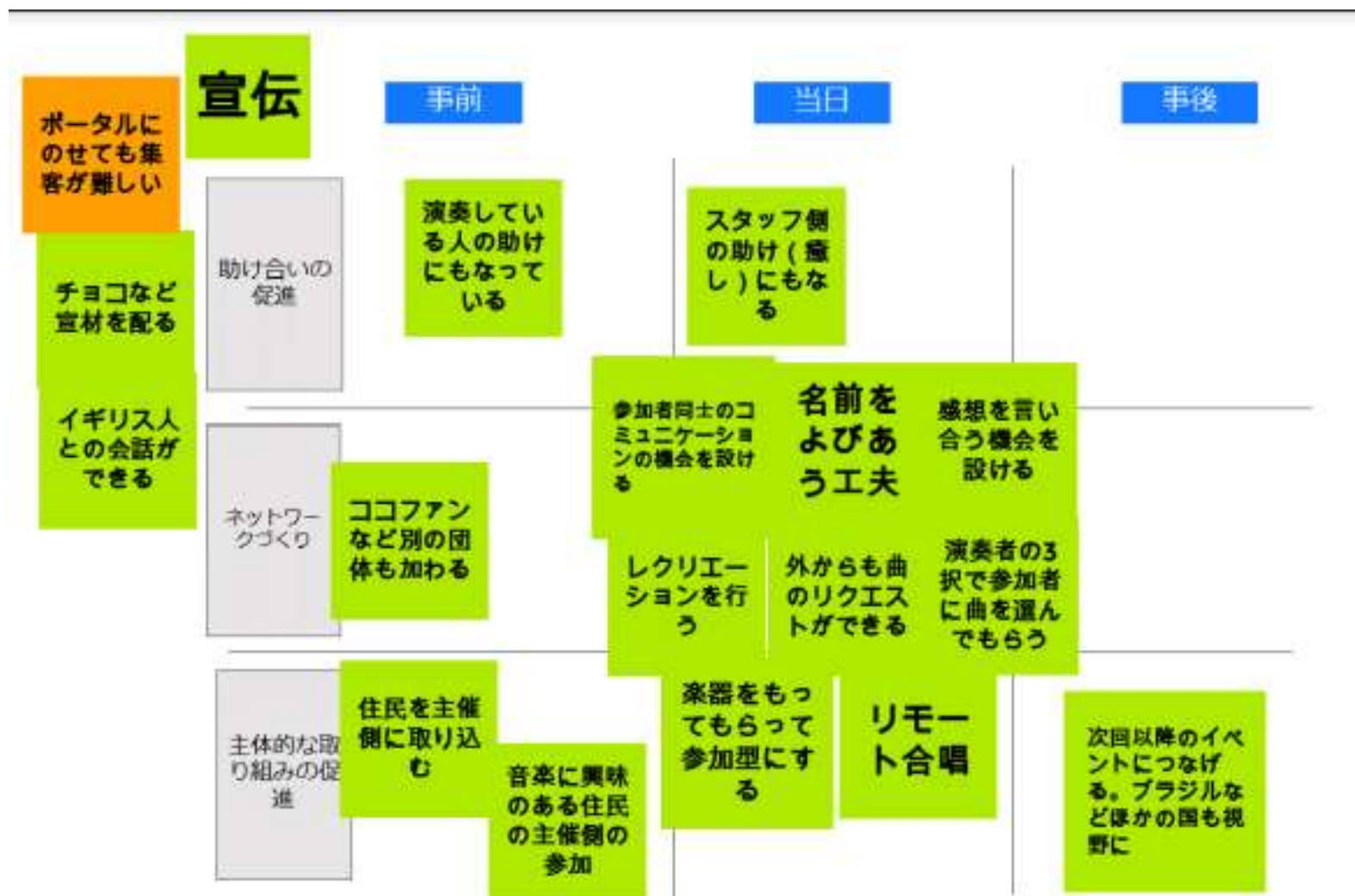
- 複数の取り組みによって、SDGs×SIM実践普及の土台をつくられた。



- FSSTの実証事業では、SDGs×SIMのフレームを活用し、事業戦略の策定およびステークホルダーとの協働に向けた対話を行った。

目的	<ul style="list-style-type: none"> FSSTにおけるコミュニティケア事業の在り方の再定義 アクションチェンジに向けた戦略策定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 課題の整理、ロジックモデルを活用した事業戦略の策定 アクションチェンジに向けたツール作成（企画/振り返りのためのチェックリスト作成） ヘルスケア サブWGでのステークホルダーとの協議
成果	<ul style="list-style-type: none"> ワークを通じて事業の大きな方向性が明確になり、関係者間で「住民主体のまちづくりが重要」という共通認識が形成された 実際にアクションチェンジを図るためのツールを作成し、アウトカムを意識した企画づくりのワークを実施。2月のヘルスケア サブWGでは、学研ココファンが主導して、関係者と企画づくりのワークが実施された（※次ページ参照）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 担当者変更に伴い、SIMの実施意義を担当者の理解・納得を得るまでに工数と時間を要した SIM実施に係る負担感。「かなり大変だったため、もっと効率的に結論までたどり着くようなやり方があるといい」という意見があった SIMの自走のためのサポート方法。担当者が自走できるような練習・環境構築までできずに終わってしまうと、担当者に大きな不安が残ってしまう

- 学研ココファンが主導したヘルスケアSWGでのワークの内容
- SWGメンバーであるカメラア会のオンラインバレンタインコンサートを題材に、住民主体の街づくりに向けて、企画にどんな工夫ができるかを検討



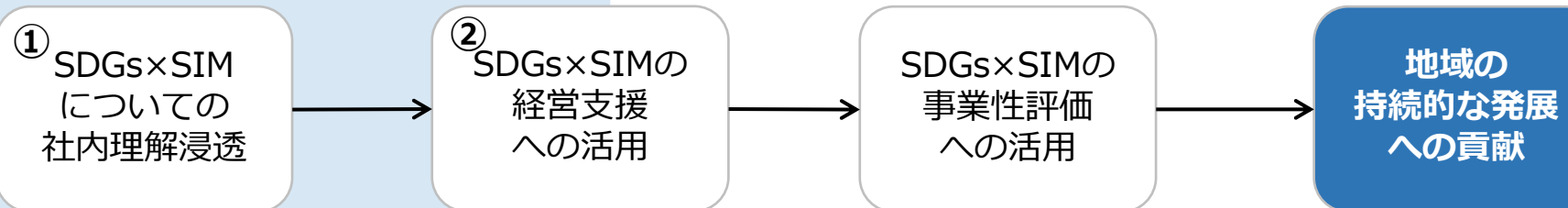
- かながわ信金では、社内の理解浸透と融資先企業との事例形成を行った。

<p>目的</p>	<p>地域の持続的な発展を目指し、かながわ信金が具体的に取り組むSDGs推進施策の検討と仕組みづくりを行うこと。</p> <p>① SDGsの社内理解を進めること ② 具体的な取引先への支援手法を検討すること</p>
<p>実施内容</p>	<p>上記の目的に対応して、以下の内容を実施した。</p> <p>① かながわ信金社内勉強会の開催 数部署でSDGs×SIMの考え方を事業計画書作成へ活用 ② 取引事例（株式会社ダイイチ）に基づいた事例構築</p>

<中長期ロードマップ>

かながわ信金のビジョン実現に向けた、SDGs×SIMの取組み

今年度（2020年度）のアプローチ



- 組織内での理解向上・事例形成への着手という成果を得た。一方、自走化に向けては課題も残った。

成果

①社内理解の促進

- SDGsの社内理解の浸透が進み、組織的な動きへつながっていった。
- 来年度以降の取り組みのための知見が社内に蓄積された。

②事例構築

- 【かながわ信金】財務面以外の取引先の強みや特性を知ることができ、SIMが実際にSDGs推進にどう関係しているのかの理解も深まった。
- 【ダイイチ】自社の強みと社会的価値の関係が体系立てて整理でき、普段の仕事とSDGsとのつながりを実感できた。地域貢献に向けて何が足りないのかが見えた。

課題

- 今回の実証事業では、かながわ信金が主体となって取引先の支援を進めるのは困難だったため、今後かながわ信金自身で実施できる形を検討する必要がある。
- この取り組みをかながわ信金全体に広めていくために必要な要素をさらに同定する必要がある。

- NVCCの実証事業では、投資先と事例形成をしながら、社内の理解促進を行った。

目的

NVCCのインパクト投資実装のための仕組みづくりを行うことで、特に以下を目的とした。
 ①NVCCの重要な関係者（社員、出資者等）の理解の促進をおこなう。
 ②具体的な社内の投資事例に基づき、現実的かつ持続的な仕組みを検討する。

実施内容

上記の目的に対応して、以下の内容を実施した。
 ①NVCC社内勉強会の開催：1回目 インパクト投資の基礎（外部講師）2回目 事例報告（予定）
 ②社内の投資事例（スマートスキャン社、以下SS）に基づいた事例構築：SS取締役全員とNVCC、神奈川県を交えてロジックモデルを構築。今後のSIMの進め方を確認した。

メディカルチェックスタジオ 銀座一丁目駅から徒歩1分 スマート脳ドック

あなたの脳疾患リスク（脳梗塞・クモ膜下出血・脳腫瘍）ご存じですか？

脳ドック 来院～終了30分以内
 検査結果はスマホに届く

価格 17,500円（税別）

スマート脳ドック



- NVCC社内及び投資先企業 (SS社) での浸透や活用の糸口が見えた。

成果

- ① SS社は、SIM (特にロジックモデル構築) のプロセスを通じて**目指す成果や長期的な事業の価値を再確認し、取締役間の共通理解を深める機会**となった。→今後、**社員にも共有**していく予定。
- ② 今回の実証の成果物は、SS社の**外部者 (特にインパクト投資家) とのコミュニケーションツールとして活用できる可能性**が見えた。→今後、**インパクト投資家とのコーディネート**を行う予定。
- ③ NVCC側からは、後半から複数名の社員が参加し、SIMの意義を体感していただくことで、**組織内の面的な広がり**の糸口を掴めた。→今後、**NVCC社内で事例共有と活用可能性の検討**を実施する予定。

課題

- ① NVCC側への実証事業の学びの落とし込みが必要。本実証では、弊社がSIM手を動かすことが中心となったため、それを今後NVCCが自ら活用可能な形に消化・吸収していくことが必要。
- ② NVCCのステークホルダーの理解醸成をして、今後実際にインパクト投資を実現していく基盤を構築するために、様々な施策の検討が必要である。

関係者のコメント (抜粋・加工)

企業側
(SS)

- ✓ ロジックモデルづくりを通じて、自分が考えを形に落とすことができた。経営陣の考えとすり合わせる機会にもなった。さらにこの実証を通じてロジックを考える機会となり、プレゼンスキルが上がったと感じる。これがあると、自社の価値を伝えて、弊社のファンを増やすことにもつながると思う。(濱野CEO)
- ✓ 各自が考えていることを紙に落として議論することが良かった。これから外部、特に投資家とのコミュニケーション・資金獲得につなげたい。(吉村CFO)
- ✓ 頭にある漠然とした考えを、文章に落とすことができた。これを社内で共有したい。(池内CMO)

投資側

(NVCC)

- ✓ 実証をやったことでも良かった。社会課題解決のスタートアップは全てやった方が良い。但し、自分が伝え切れるか難しい。
- ✓ 少しの参加だったが、それだけ時間をかけてもやる意義があると思った。他のスタートアップでもやると社内の意思疎通にもなるし、対外的なプレゼン能力も上がると思った。
- ✓ 日本でもこういう取り組みは大事になるだろうと思った。まだ担当している投資先に自信を持って勧められるわけではないが、今後、濱野CEOから他の投資先に御指南いただけると有難い。

- 2月4日、入門研修（第3回）を開催。入門編第3回ではのべ88名が視聴。アンケート回答者50名のうち、80%が「より学んでみたいと思った」と回答。

参加者・組織数

延べ視聴者数
88名

最大同時視聴者数
72名

申込数
109名

研修の様子



インパクト投資ファンドの紹介



事例として扱う保育士育成事業の取組紹介

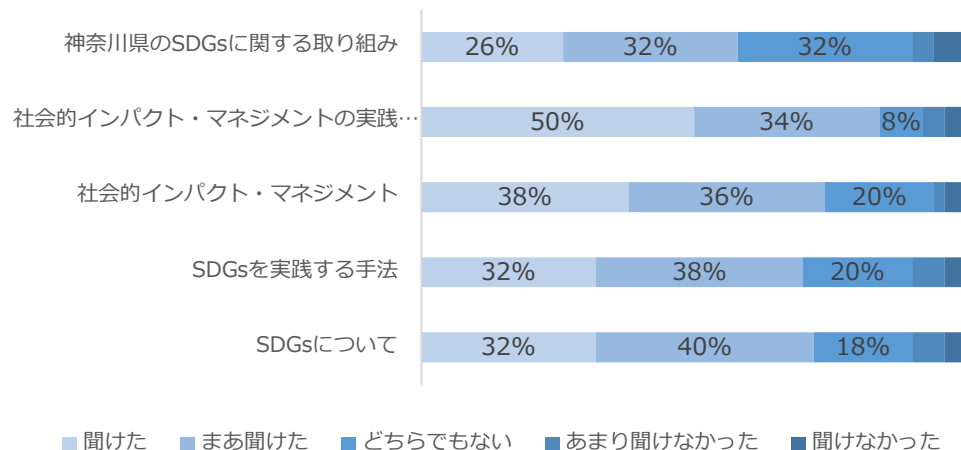


入門編研修内でのロジックモデル作成の様子

回答数：50

研修での理解・学びではほぼ全項目で7割超が肯定的な回答

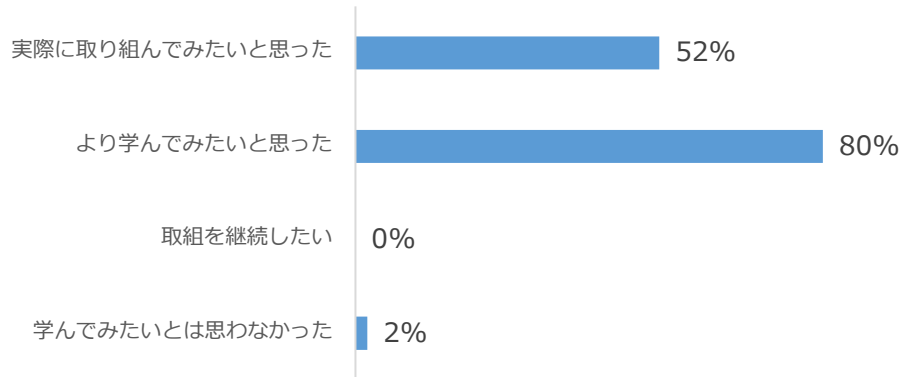
以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



今後SIMを学んでみたいが8割、取り組みたいが5割超の回答

セミナーを聞いて「社会的インパクト・マネジメント」について

どう思われましたか（複数回答可）



アンケート結果

- 全行程が修了。昨年度に比べ、コミットメントや達成率が向上した。

	昨年度	今年度
参加率 (8割以上出席)	65% (20名/31名)	85% (22名/26名)
最終レポート 提出	72% (18社/25社)	100% (12社/12社)
修了証	18名	22名
ロジックモデル 作成	68% (13社/19社※)	100% (12社/12社)
指標設定	42% (8社/19社※)	83.3% (10社/12社)

※参加事業者数

改善の要因

昨年度の下地

対象の限定
(事業者のみ)

オンライン化

個人→組織

メンタリング

ピアグループ

課題

アフターフォロー

ネットワーク維持

- 参加者にアンケートを実施し、回答集計中。具体的な成果や学び、今後に向けた活用が挙げられている。

研修による成果や学び

ロジックモデルを作成することは、やろうとしていることの説明だけではなく、**新たな気づきを得るフレームワークでもあったと感じた。**

とても多くの視点と気づきを得ることができ、自分自身に問いかける日々だった。ロジックモデルは手法の一つに過ぎませんが、独りよがりの論理構築ではなく、**ステークホルダーに客観的に理解してもらえか？**の思考で考えることを学んだ。

SDGsとインパクト評価、地域の課題解決のための事業が相互に**関連づけられていることの説明を通して、ステークホルダーへの理解協力を取り付ける技法が確認できたと思う。**

ロジックモデルは自社だけではなく、ステークホルダーにも提供できる事を学んだ事は、**今後の営業活動を行うにあたっての強み**となった。

アクセラレーターや投資家向けのピッチなどで、今回の研修で学んだ知識・考え方を活用している。

今後に向けた活用

今回の研修で学んだ事を**社内で共有し、足腰の強い組織にする**目標ができました。

本プロジェクトにつき、**有力ステークホルダーを集めてロジックモデル主体にプレゼンを行う。**

SDGsの視点を強くした新規事業の構想も練りつつある。

早期の資金調達を目指している

※成果アンケート回収中（参加者の声）

1-13 改めて、本事業の意義

- 本事業はSDGs×SIM推進の潮流に則りつつも、現場（特に中小企業や金融機関）の実情に寄り添いながら、実装可能な具体的方法をつくってきたところに意義があるといえる。



1. 共有：3年間の取組みと成果（関係者の声、質疑応答を含む） . . . 30分
2. 相談：成果報告会について . . . 10分
3. 共有：神奈川県に来年度の取組み . . . 10分
4. 議論 . . . 60分

- 今年度は録画の公開を中心に行う予定。



	コンテンツ	登壇者	時間	時期
1	本事業の総括 <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的 ・実施してきたこと ・成果や学び ・今後の展望 	<パネルディスカッション> 山口理事 今田さん 幸地さん 今尾（モデレーター）	45分	未定
2	SDGs×SIMとは <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの紹介 	<プレゼン> ケイスリー	20分	3月下旬
3	事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の紹介 ・成果と学びの共有 	<パネル> 実証事業参加者 等 ケイスリー	45分	3月中旬
4	実践者の声	<個別インタビュー> 研修参加者から3-4社	10分/人	2月下旬～3月上旬
5	委員からのメッセージ ～SDGs×SIM実践の意義～	<個別インタビュー> 今田さん 大井さん 志波さん 黄さん 米原さん	3-5分/人	3月上旬～中旬

目次／アジェンダ

1. 共有：3年間の取組みと成果（関係者の声、質疑応答を含む） . . . 30分
2. 相談：成果報告会について . . . 10分
3. 共有：神奈川県に来年度の取組み . . . 10分
4. 議論 . . . 60分

SDGs推進に向けた「社会的インパクト評価システム」の導入

自治体名：神奈川県

<p>1.地域特性と課題及び目標</p>	<p>SDGs達成に向けては、民間の取組が重要であり、ビジネスとして持続的にSDGsを展開するためのファイナンスが課題となっている。そのため、SDGsに沿った取組の価値をインパクトとして「見える化」することにより企業等への社会的投資など、SDGs金融を推進し、事業者、資金提供者、消費者をつなぐエコシステムの形成に取り組む。</p>	<p>2.関連するゴール</p> 
<p>3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</p>	<p>非財務情報を測る「ものさし」となる社会的インパクトを定量的・定性的に把握し可視化。SDGsのゴール・ターゲットに、この社会的インパクトを関連付けることにより、SDGsへの貢献も可視化。かながわSDGsパートナーなどSDGsに取り組む事業者と、ベンチャーキャピタル、信用金庫、地方銀行等多様な資金提供者が連携する金融フレームワークにおいて、財務情報、非財務情報及びSDGsへの貢献を一体的に捉えることにより、社会的投資など、SDGs金融を推進する。</p>	
<p>4.自治体SDGs推進等に向けた取組</p>		<p>6.取組成果</p>
<p>【かながわ版金融フレームワークによるSDGs金融の推進】</p> 		<p>【SDGs社会的インパクト評価実証プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計12件の実証事業を行い、SDGs経営に向けての活用を目的とした「SDGs社会的インパクト・マネジメント・ガイド（導入編、実践編、事例編）」を作成・公表。 評価を担う人材育成に向けて、事業者、資金提供者、事業支援者の合計25者が参加した全10回の実践研修を実施。 中小企業の伴走型支援を3件開始。 ミュージックセキュリティーズ㈱と連携して、SDGsインパクトの可視化と資金調達を図る「かながわSDGsアクションファンド」を設置(2020年10月) <p>【パートナーシップによる展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜銀行との連携により、SDGsチェックシートを活用した「SDGsフレンズローン」を開始(19年10月)。利用実績：延べ3,052件、4,485億円(20年8月現在) かながわSDGsパートナー制度(334者)によりSDGsに取り組む企業等の裾野拡大 SDGs達成に向けた新たなビジネス創出の機会として「かながわSDGsパートナーアクションミーティング」を開催(2020年2月。ブース出展19者、来場者350名) SDGインパクトを進めている国連開発計画(UNDP)と連携趣意書(SOI)締結
<p>5.取組推進の工夫</p>		<p>7.今後の展開策・</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 投融資の実効性を高めるため、ベンチャーキャピタル、信用金庫、地方銀行、都市銀行、機関投資家等の多様な資金提供者と緊密に対話し、事業性評価の1つとして、インパクト評価手法を検討。 ■ 官民連携PF社会的投資促進分科会を通して、インパクト評価手法を検討し、他地域とも共有。 ■ 県内企業へのSDGs経営の浸透のため、横浜銀行と連携し、新たな商品を提供。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ パートナー制度、社会的インパクト評価とともに、SDGs経営に向けて、事業計画策定・実施・検証までをサポートする伴走型支援により、中小企業の取組を後押しをする。 ・ パートナー等事業者と資金提供者のマッチングを図り、社会的投資の促進・拡大など、SDGs金融を推進し、事業者、資金提供者、消費者をつなぐエコシステムの形成につなげる。 ・ グリーンボンド発行(20年10月 50億円)今後、発展形としてのSDGsボンドを検討。 ・ ジャパンSDGsアクション推進協議会を立ち上げ、UNDPと連携して「SDGsアクションフェスティバル」を2021年3月に開催。SDGs投資についても議論する予定。様々なステークホルダーの参画を得て、県民一人ひとりのアクションにつなげる。
<p>8.他地域への展開状況(普及効果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県等が主催した「SDGs全国フォーラム」で採択したSDGs日本モデル宣言について、当初は93自治体、現在は209に広がる。全国フォーラムは、2021年1月長野県が開催予定 ・ 「SDGsハイレベル政治フォーラム2020(HLPF)」公式会合に2年連続で招聘を受け、オンライン参加。UN Web TVを通じ世界に発信 	

1. 共有：3年間の取組みと成果（関係者の声、質疑応答を含む） . . . 30分
2. 相談：成果報告会について . . . 10分
3. 共有：神奈川県に来年度の取組み . . . 10分
4. 議論 . . . 60分

1. 本年度（あるいは過去3年度）の成果と意義の捉え方
2. 今後めざすべき姿（目標）と、
それに向けた来年度の目標と具体的な取組み